日本庭園と生物多様性　第５弾

なごや環境大学
共育ゼミ「都市の自然のモノサシづくり」2020 年度 報告書

いきもの図鑑

― 白鳥庭園 名古屋市熱田区 ＆ 徳川園 名古屋市東区 ―

日本庭園ー原風景のレフュージア

日本庭園はトンボのオアシス
白鳥庭園・徳川園のトンボ（25 種）
トンボマップ　ほか

チョウの食草・蜜源
白鳥庭園・徳川園のチョウ（28 種）
アオムシ・イモムシ　ほか

白鳥庭園・徳川園の野鳥（50 種）
ほか

【改善・提案】白鳥庭園 2017-20
【提案】徳川園 2020

2021 年　3 月　2 日

モノサシなごや　検索

都市の自然のモノサシ研究会　http://blog.goo.ne.jp/monosashi758

日本庭園－原風景のレフュージア（待避所）

日本庭園の調査を始めて５年目となりました。

当初は、日本庭園の動物といえばコイが思い浮かぶ程度の認識でした。したがってチョウなどの少ない静止画像的な空間だろうと思っていました。しかし調べてみたら、白鳥庭園では 18 種のチョウが確認されました。3ha 程度の面積ながら、鶴舞公園（24ha）の 16 種よりも多くのチョウがいたのです（P.33-34 参照）。

徳川園の東半分は江戸時代以来の樹林で、シイなどの大木が空を覆っています。このため、徳川園こそはチョウが少ないだろうと予想しました。しかし 15 種、ほぼ鶴舞公園なみの種数が確認されました。西側の明るく広々とした池の周りだけでなく、シイ林の中にポッカリあいた陽だまりにも、多くのチョウがみられました（P.27-28、35-36 参照）。

日本庭園といえば池ですが…。

白鳥庭園、徳川園ともに 20 種ほどのトンボが生息しています。これは、三つの池を持つ鶴舞公園（25 種）には及ばないものの、外堀や御深井池など広い水面を持つ名城公園（18 種）を上回る水準です。水辺環境の乏しくなっている市街地にあって、白鳥庭園や徳川園は、トンボにとってのオアシスとなっているようです（P.21-22 参照）。

白鳥庭園は世界デザイン博覧会（1989 年）、徳川園は愛・地球博（2005 年）を機に整備された庭園です。では、両園の池のトンボはどこから移住してきたのでしょう？　両園とも、それなりの規模の池からは３km ほど離れています。両園には、セスジイトトンボ、ムスジイトトンボなど名古屋市内では生息地の限られるトンボ、しかも飛翔力の小さいイトトンボもいるのです。これらの種の供給源は、どこだったのでしょう？

白鳥庭園：　木曽三川流域の自然（御嶽山～木曽川～伊勢湾～熱田）
徳 川 園：　尾張藩御領地の海・山・里

日本庭園は、限られた敷地の中に山から海に至る多様な地形をギュッと圧縮して再現します。このため面積の割に多様な環境が形成され、多様ないきものが見られるのが特徴です。

地形や植物だけでなく、チョウやトンボ、野鳥など「多様ないきものが織りなす原風景」を縮景・再現してくれるのが、日本庭園だといえます。両園が整備された後にどこからかトンボやチョウが移住してきたように、今度は周囲の市街地に在来のいきものたちを送り返し、原風景の維持・再生に貢献する…**原風景のレフュージア**（待避所）ともいうべき役割が、21 世紀の日本庭園には期待されているように思います。

◆白鳥庭園　名古屋市熱田区熱田西町２番５号
http://www.shirotori-garden.jp/
1991 年 開園（有料区域面積 3.3ha）、木曽ヒノキ貯木場跡
築山：　木曽五木の針葉樹林（池との高低差 9m）
渓流：　延長 130m（高低差 5.5m）、水源は工業用水
池　：　面積 0.56ha（平均水深 0.3m）

◆徳 川 園　名古屋市東区徳川町 1001
https://www.tokugawaen.aichi.jp/
2004 年 再整備･開園（有料区域面積 2.1ha）、藩主隠居屋敷跡
山　：　シイ林（特別緑地保全地区 1.2ha、池との高低差 11m）
渓流：　延長 140m（高低差 3.7m）、水源は地下水
池　：　面積 0.48ha（平均水深 0.7m）

目　次

クイズ：トンボの産卵　P.4
トンボの産卵場所　5
日本庭園はトンボのオアシス　7
コラム：トンボの環境利用　11
コラム：トンボの観察適地　12
白鳥庭園・徳川園のトンボ　13
— 合計 25 種を写真で解説！—
コラム：アカトンボの見分け方　18
トンボマップ（白鳥庭園・徳川園）　19
コラム：名古屋の池の分布とトンボの観察記録　21

P.3　クイズ：チョウの産卵
23　**チョウの食草**（幼虫のエサ）
25　**チョウの蜜源**（成虫のエサ）
27　チョウマップ（白鳥庭園・徳川園）
29　**白鳥庭園・徳川園のチョウ**
— 合計 28 種を写真で解説！—
31　アオムシ・イモムシ
33　コラム：名古屋のチョウ
35　コラム：チョウの観察記録（白鳥庭園・徳川園）

白鳥庭園・徳川園の野鳥　37
— 合計 50 種を写真で解説！—
コラム：名古屋の野鳥　43
コラム：野鳥の観察記録（白鳥庭園・徳川園）　45

47　【改善・提案】**白鳥庭園 2017-20**
チョウの舞う里の陽だまり／和風ﾐﾆ・ﾊﾞﾀﾌﾗｲｶﾞｰﾃﾞﾝ
53　【提案】**徳川園 2020**
和の食草・蜜源でチョウを呼ぶ／
水辺環境の多様性を高め、トンボ相を一層豊かに

クイズ　チョウの産卵

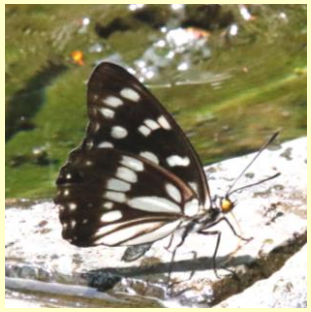
チョウは、**幼虫のエサとなる植物**（**食草**）に卵を産みます。
チョウといえば ♪花から花へ…♪ というイメージが浮かびますが、それは成虫の吸蜜行動。
子孫を残すためには、イモ虫・青虫が食べる葉っぱがキモなんです。
そこで問題です。

下記のチョウたちは、それぞれどの植物に産卵するのでしょう？　（正解は 23-24 ページ）

ヒント　下記3種の幼虫は、樹木の葉を食べます。

ナミアゲハ

アオスジアゲハ



ゴマダラチョウ

ヤマトシジミ

ヒント　下記3種の幼虫は、草の葉を食べます。

ツマグロヒョウモン♀

モンシロチョウ

エノキ

ミカン類

クスノキ

アブラナ

カタバミ

スミレ類

写真：　飯田康博、河崎泰了、加藤正嗣、加藤恵一

クイズ　トンボの産卵

トンボには、**A 植物に卵を産みつける**（産卵管を突き刺す）**タイプ**と、
B 水面に卵を放出する（生殖弁を開く）**タイプ**があります。
Aタイプ のトンボが繁殖するためには、水面と水草のセットが必要です。
Bタイプ が卵を放出する環境は、種によって異なります。
そこで問題です。
下記のトンボたちは、それぞれどんな場所に産卵するのでしょう？　（正解は次ページ）

ヒント　下記3種は、植物体に 卵を産みつけるタイプ

オオアオイトトンボ

クロイトトンボ

ギンヤンマ

ヒント　下記3種は、水面に 卵を放出するタイプ

オニヤンマ

シオカラトンボ

アキアカネ

池 の 水生植物

水辺 の 樹木の枝

明るい池や湿地 の 水面

樹林に囲まれた 水路

写真：　松沢孝晋、飯田康博

トンボの産卵場所

A1 「池の水生植物」に産卵

イトトンボ科、ヤンマ科など は、池に生育する浮葉植物や沈水植物に産卵管を突き刺して産卵します。

水面だけでなく
水生植物が必要！

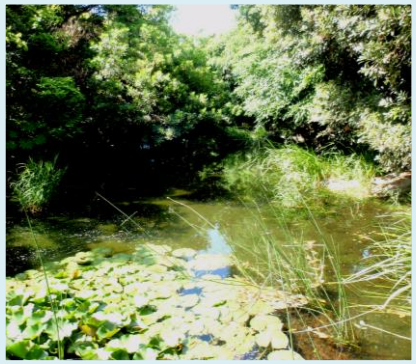
クロイトトンボ の産卵（左：浮葉植物 ／ 右：沈水植物）

モノサシトンボ
水面に浮かぶ ヨシの茎 に産卵

ギンヤンマ
（左端）抽水植物の茎 に産卵
（中左）沈水植物 に産卵
（中右）水面の落ち葉 に産卵
（右端）水際の石に付着する 苔 に産卵

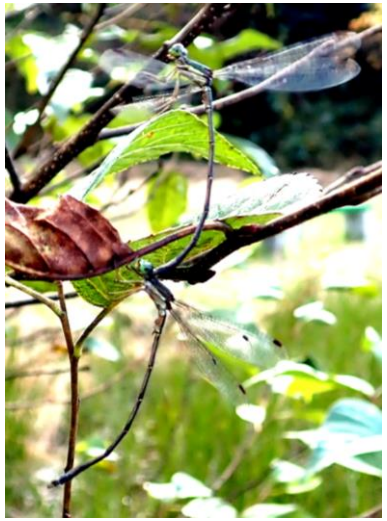
A2 「水辺の樹木の枝」に産卵

オオアオイトトンボ は、9～10 月ごろ林内から水域に戻り、
水面に張り出した樹木の枝に産卵管を突き刺して産卵します。



水面に張り出して茂る
樹木が必要！

オオアオイトトンボ
（左） 静止
（中）連結・交尾
（右）木の枝 に産卵



B１ 「明るい池や湿地の水面」に産卵 （トンボ科）

シオカラトンボ は、明るい開放的な池の水面に、腹部先端を打ちつけるように産卵します。

水面さえあれば産卵可能！

アキアカネ は、暑い夏を高山で過ごし、
９月下旬あたりから平地に降りて、
池の水際や湿地などの浅い水面で産卵します。

池の浅いところや湿地が必要！

B２ 「樹林に囲まれた水路」に産卵 （オニヤンマ科）

オニヤンマ は、樹林の中の緩やかな流れや湿地で、底質の泥に腹部先端を打ちつけるように産卵します。

ゆるい流れが必要！

◆ トンボの産卵タイプ

A： 植物に 卵を産みつける
（産卵管を突き刺す）

ヤンマ科／イトトンボ科／モノサシトンボ科／
アオイトトンボ科など

B： 水面に 卵を放出する（生殖弁を開く）

トンボ科／オニヤンマ科／
エゾトンボ科／サナエトンボ科 など

写真： 松沢孝晋、飯田康博

日本庭園はトンボのオアシス

～ 白鳥庭園と徳川園に生息するトンボ ～

白鳥庭園と徳川園は市街地に造成された日本庭園で、水景施設管理の一環として水面清掃・池清掃が定期的に実施され、水生植物の生育が安定した状態で維持されています。園内を流れる水は、ろ過循環式に加えて豊富な工業用水や地下水を補給しており、良好な水質を保持しています。

白鳥庭園のトンボ確認種は 21 種、徳川園のトンボ確認種は 20 種で、鶴舞公園や呼続公園とほぼ同レベルのトンボが生息しており、発生数も安定しています。 このように、**市街地にある日本庭園は、都市における安定したトンボの発生地**として機能しています（P. 21-21 参照）。

白鳥庭園

築山から流れる渓流を模した流水を起点に、清羽亭付近の緩流域、上の池・中の池・下の池の池沼など多様な水辺環境を有している。下の池や清羽亭付近の水域は、浮葉植物や抽水植物が豊富で、トンボの生息にとって良好な環境を呈している。

これまで確認したトンボは 21 種で、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、ギンヤンマ、チョウトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボなどトンボの個体数も多い。

徳川園

大曽根の瀧から流れる渓流を模した流水を起点に、渓流の池（中溜り）、龍仙湖、西湖堤東の池、菖蒲田など多様な水辺環境を有している。西湖堤東の池は浮葉植物が多く生育しており、トンボの生息にとって良好な環境を呈している。

これまで確認したトンボは 20 種で、モノサシトンボ、セスジイトトンボなど都市部では生息地が限られる種も確認されている。

日本庭園は、なぜトンボのオアシスなのか？

白鳥庭園と徳川園は、市街地にありながら多くの種類のトンボが生息しています。その理由を水域環境から考えてみます。

理由１： 水がきれいな状態で安定している

白鳥庭園と徳川園の水

池泉回遊式の日本庭園である白鳥庭園と徳川園は、水を循環させて水域景観を形成している。ろ過循環式に加えて豊富な工業用水や地下水を補給しており、良好な水質を保持している。

そのため、トンボの生息に重要な要素である水質が安定的に、良好な状態で維持されている。

他の市街地公園と比較すると・・・・・

水が汚れている中村公園（中村区）**と道徳公園**（南区）**の池**

水は黄緑色を呈しており、富栄養化が進んだ状態と思われる。

水が濁った呼続公園曽池（南区）

呼続公園曽池は浮葉植物や沈水植物が豊富でトンボが多い池である。
2018 年には池の水が濁り、トンボの数も減少した。

写真： 松沢孝晋

理由２　：　水域の植生が多様で、安定している

白鳥庭園　下の池

白鳥庭園　清羽亭西

徳川園　西湖堤東

クロイトトンボ産卵

アオモンイトトンボ交尾

クロスジギンヤンマ産卵

ギンヤンマ産卵

白鳥庭園・徳川園の水域に生育する水生植物

白鳥庭園の下の池（左写真）や清羽亭西（中写真）には浮葉植物や抽水植物が生育し、イトトンボ類、ギンヤンマ、チョウトンボなどの産卵場所、羽化場所となっている。

徳川園の西湖提東の池（右写真）は浮葉植物が生育し、イトトンボ類の産卵場所となっている。

他の市街地公園と比較すると・・・・・

大江川緑地

中村公園

水面に水生植物が生育していない大江川緑地（南区）**と中村公園**（中村区）**の池**

蛇池（HP より）

蛇池（2018. 7）

水生植物が消失した蛇池（西区）

HP 写真（左写真）では水生植物が生育していたが、2018 年（右写真）に当地を訪れた時は、水生植物の生育はほとんどなかった。

理由３　：　水域を取り囲むように樹林が分布する

白鳥庭園　下の池

徳川園　渓流の中溜り

樹林に囲まれた白鳥庭園と徳川園の水域

白鳥庭園の下の池（左）と徳川園の渓流中溜り（右）は、水面を囲むように樹林地が分布し、トンボにとって良好な生息空間を形成している。
羽化した未熟なトンボは、成熟するまで水面に連続する草地や樹林地を利用し、成熟後も、水面に張り出した樹木を交尾や休息、止まりの場として利用する。　またオオアオイトトンボは、水面に張り出した樹木の枝などを産卵の場として利用する。（P.11 参照）

他の市街地公園と比較すると・・・・・

中村公園

道徳公園

池の周囲に植栽樹を配置　：　中村公園（中村区）**と道徳公園**（南区）**の池**
樹木の密度は疎な感じで、樹林が有するワイルドさはない。

鶴舞公園

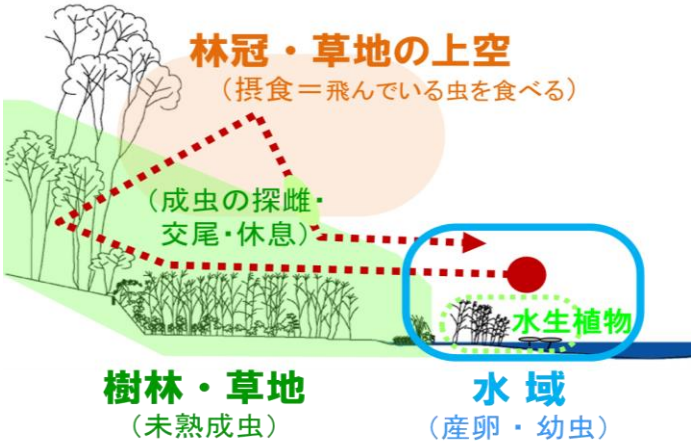
呼続公園

池の水面に連続する樹林　：　鶴舞公園（昭和区）**と呼続公園**（南区）**の池**
水面に連続して樹林があると、トンボの数も多くなる。

写真：　松沢孝晋、飯田康博

【コラム】　トンボの環境利用

羽化した直後のトンボ（**未熟成虫**）は、水辺近くの樹林や草地で過ごします。
成虫になると、**摂食**（小虫を捕食）や**探雌**（雌さがし）、**休息**、**交尾**に水辺の植物を利用します。
そして水生植物や水面に**産卵**します。**幼虫**（ヤゴ）は水の中で成長し、水草を利用して**羽化**します。



陸生の樹木・草

抽水植物

浮葉・沈水植物

＊トンボはこのように、「水面・水生植物・樹林」などの環境を利用しながら一生を送ります。

未熟成虫

羽化した直後のトンボ（未熟成虫）は、成熟して繁殖能力を獲得するまでの間、**水辺近くの樹林や草地**で過ごします。

摂食・探雌・休息

ノシメトンボの休息

タイワンウチワヤンマの休息

セスジイトトンボの休息

交　尾

アキアカネの交尾

アオモンイトトンボの交尾

クロイトトンボの交尾

産　卵

水辺の木の枝への産卵
（P.5 参照）

オオアオイトトンボの産卵

ギンヤンマの産卵

クロイトトンボの産卵

羽　化

シオカラトンボの羽化

イトトンボの羽化

【コラム】　トンボの観察適地

cf. トンボマップ（P.19－20）

トンボは、幼虫の時は水中、成虫になっても未熟なうちは樹林、成熟すると水辺…というように、ライフステージによって利用する環境を変えます。
また種によっても、主に利用する環境要素が異なります（産卵場所の違いについては P.5-6 参照）。
ここでは、「観察に適した場所」という視点から、白鳥庭園・徳川園の観察場所とそこで観察できるトンボについて整理してみました。

明るく広い池 ／ 明るい池・湿地・草地

明るく広い池では、大型で飛翔力の強い**ギンヤンマ**や**オオヤマトンボ**などが、水面をパトロールのように飛翔する姿が観察できます。　また池の水面では、**シオカラトンボ**や**ショウジョウトンボ**が水面に腹の先を打ちつけながら産卵する姿が観察できます。
水辺や草地では、夏に羽化した未熟な**ウスバキトンボ**が群れで飛び、餌を獲る様子が観察できます。

湿地や浅い池

湿地や浅い池では、**アカトンボ類**（トンボ科アカトンボ属）の交尾や産卵が観察できます。アカトンボ類は、水田や休耕田のような湿生草地、池の水際などに産卵します。羽化後、未熟個体は樹林や山地で過ごし、9～10 月になると再び水辺に戻ってきます。

水生植物が多い池

浮葉植物や抽水植物、沈水植物など水生植物が生育している池では、クロイトトンボ、アオイトトンボなど多くの**イトトンボ類**が観察できます。イトトンボ類は植物体に産卵するため、水生植物の豊かな池でよく見かけます。

写真：　松沢孝晋、飯田康博

樹林に囲まれた池

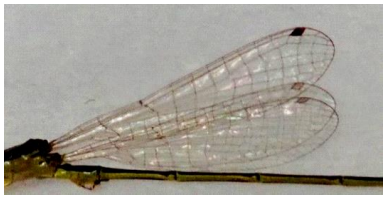
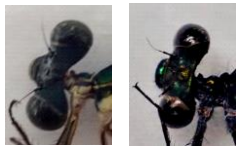
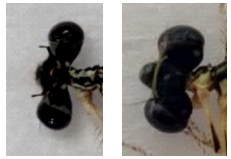
樹林に囲まれた池では、5～6 月ごろ未熟な**コシアキトンボ**が、水面や樹木の間を飛翔する姿が観察できます。
クロスジギンヤンマや**オオシオカラトンボ**も、比較的暗い水面で多くの個体が観察されます。
また 9～10 月になると、水面に張り出した樹木の枝に産卵する**オオアオイトトンボ**が、樹林から水辺に出てきます。

水生植物が多い流水

流水性のトンボでは、**ハグロトンボ**が生息しており、園内の流水で観察できます。ハグロトンボは水生植物に産卵するため、水生植物の豊かな流水でよく見かけます。

白鳥庭園・徳川園のトンボ

これまでの調査で、白鳥庭園で 21 種、徳川園で 20 種、合計 25 種のトンボが確認されています。(P. 21－22)
これら確認された 25 種のトンボについて、分類基準に沿った形態的特徴を整理し、各種について、観察時期・観察場所・生態的特徴を説明します。

翅の形	複眼の形	止まった時の姿勢	白鳥庭園・徳川園での記録種
■ **前翅と後翅がほぼ同じ大きさ** ⇒ 均翅亜目  アジアイトトンボ	■ **複眼が離れる**  左：オオアオイトトンボ 右：ハグロトンボ  左：モノサシトンボ 右：アジアイトトンボ	■ **翅を開いて止まる** ⇒ アオイトトンボ科 オオアオイトトンボ	**アオイトトンボ科** オオアオイトトンボ
		■ **翅を閉じて止まる** ⇒ カワトンボ科 ⇒ モノサシトンボ科 ⇒ イトトンボ科 アオモンイトトンボ	**カワトンボ科** ハグロトンボ **モノサシトンボ科** モノサシイトトンボ **イトトンボ科** クロイトトンボ、セスジイトトンボ、ムスジイトトンボ、アオモンイトトンボ、アジアイトトンボ
■ **前翅より後翅の方が大きい** ⇒ 不均翅亜目 クロスジギンヤンマ	■ **複眼が離れる** ⇒ サナエトンボ科 タイワンウチワヤンマ	■ **翅を開いて水平にとまる** タイワンウチワヤンマ	**サナエトンボ科** タイワンウチワヤンマ
	■ **複眼が接する** ⇒ ヤンマ科 ⇒ エゾトンボ科 ギンヤンマ ／ オオヤマトンボ	■ **翅を開いてぶらさがるように止まる** ギンヤンマ	**ヤンマ科** ギンヤンマ、クロスジギンヤンマ **エゾトンボ科** オオヤマトンボ
	⇒ トンボ科 コシアキトンボ	■ **翅を開いて水平にとまる** チョウトンボ オオシオカラトンボ	**トンボ科** チョウトンボ、 ナツアカネ、リスアカネ、ノシメトンボ、アキアカネ、コノシメトンボ、マユタテアカネ、ネキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ

均翅亜目： 前翅と後翅がほぼ同じ大きさのトンボ

◆アオイトトンボ科

オオアオイトトンボ

・観察時期：9～10 月
・観察適地： 樹林に囲まれた池
・記録地：白鳥庭園

体長 40～55mm
▶5～6月ごろから羽化がはじまり、夏は林内で過ごす。秋になると樹林に囲まれた池に現れ、水面に張出した樹木の枝などに産卵。
▶白鳥庭園の下の池では、秋に多くの個体が見られる。

◆カワトンボ科

ハグロトンボ

・観察時期：7～8 月
・観察適地： 水生植物が多い流水
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 54～68mm
▶幼虫は、水草の多い流水に生息する。5～6 月ごろから羽化がはじまり、未熟なうちは林内で過ごす。
▶流水で普通に見られる種だが、白鳥庭園・徳川園では少なく、園内の流水で稀に確認される。

◆モノサシトンボ科

モノサシトンボ

・観察時期：6～7 月
・観察適地： 水生植物が多い池
・記録地：徳川園

体長 38～51mm
▶腹部にモノサシの目盛りのような斑紋があるきれいなトンボ。
▶樹林が多い池などに生息し、徳川園の渓流の池（中溜り）で見られる。白鳥庭園では確認されていない。

◆イトトンボ科

クロイトトンボ

・観察時期：5～10 月
・観察適地： 水生植物が多い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 27～38mm
▶春から秋にかけて見られる普通種。▶白鳥庭園、徳川園でも多くの個体が見られる。浮葉植物の葉の上で止まったり、交尾・産卵している姿が観察できる。

セスジイトトンボ

・観察時期：5～9 月
・観察適地： 水生植物が多い池
・記録地：徳川園

体長 27～37mm
▶名古屋市内では、生息するところが限られる。▶徳川園の西湖堤周辺では春から夏にかけて多くの個体が見られ、市内で希少な生息地となっている。

ムスジイトトンボ

・観察時期：5～9 月
・観察適地： 水生植物が多い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 30～39mm
▶名古屋市内では、生息するところが限られる。
▶白鳥庭園では春から夏にかけて多くの個体が見られる。徳川園では本種は少なく、セスジイトトンボが優占する。

アオモンイトトンボ

・観察時期：4～10 月
・観察適地：
水生植物が多い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 29～38mm
▶春から秋にかけて見られる普通種。▶白鳥庭園、徳川園でも多くの個体がみられる。水際の草本や抽水植物に止まったり、交尾する姿が観察できる。

アジアイトトンボ

・観察時期：7～9 月
・観察適地：
水生植物が多い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 24～34mm
▶春から秋にかけて見られる普通種。移動性が強く、水辺と草むらがあれば、いろんな場所で見ることができる。
▶白鳥庭園・徳川園では、個体数は多くない。

写真： 松沢孝晋、飯田康博

不均翅亜目： 前翅より後翅のほうが大きいトンボ

◆サナエトンボ科

タイワンウチワヤンマ

・観察時期：7～9 月
・観察適地： 明るく広い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 70～87mm
▶元来は南方系の種だが、温暖化の影響からか、生息地の北上と東進が続いている。現在、千葉県まで生息地が拡大。愛知県では 1999 年に発見され、その後も侵入・定着が進み、名古屋市内の公園緑地で普通に見られるようになった。
▶白鳥庭園・徳川園では、７月ごろから９月ごろまで見られ、池の水際付近を飛翔したり、水生植物に止まっている姿が観察できる。

◆ヤンマ科

ギンヤンマ

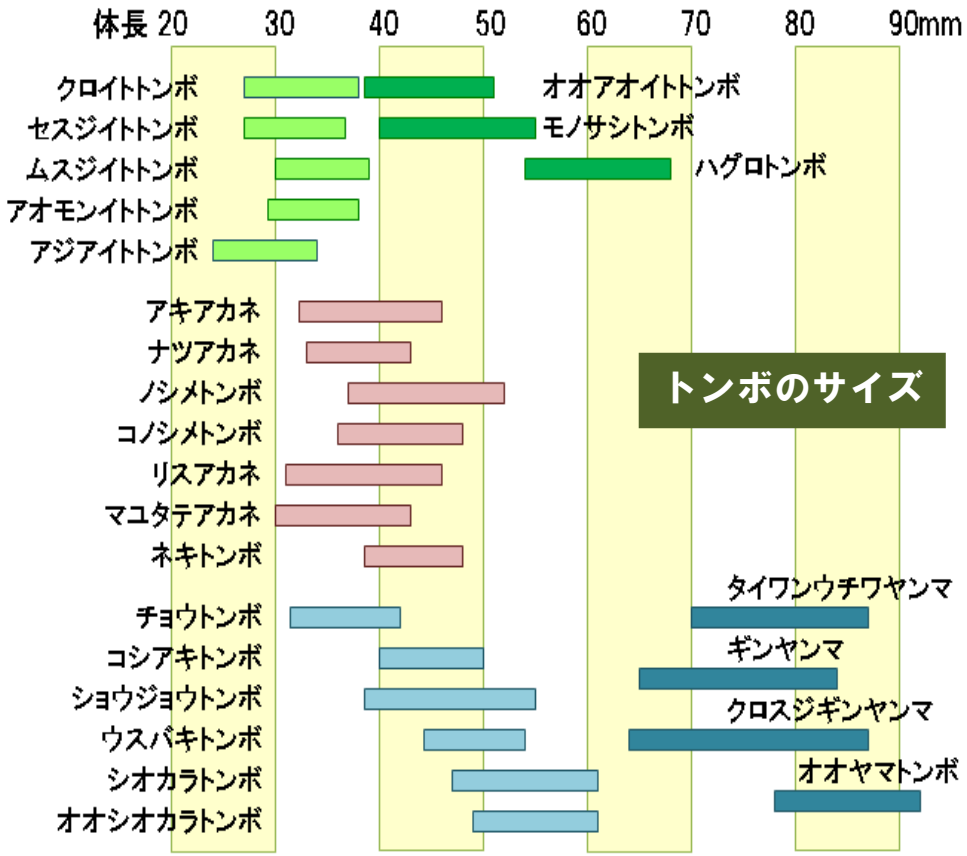
・観察時期：5～9 月
・観察適地： 明るく広い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 65～84mm
▶明るい開放的な水面を、昼間広く旋回する姿や夕方に群れで飛ぶ姿が見られる。産卵は水面に浮かぶ植物体などに♂♀が連結して行うことが多い。飛翔力が強く、新しい池などができると最初にやってくる種のひとつである。

クロスジギンヤンマ

・観察時期：4～7 月
・観察適地： 樹林に囲まれた池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 64～87mm
▶ギンヤンマより少し早い４月ごろから出現し、夏ごろまで見られる。樹林に囲まれた水面を飛翔することが多く、明るい水面を好むギンヤンマとは異なる。産卵は♀単独で行うことが多い。
▶白鳥庭園では下の池、徳川園では渓流の池（中溜り）でよく見られる。



◆エゾトンボ科

オオヤマトンボ

・観察時期：7～9 月
・観察適地： 明るく広い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 78～92mm
▶夏に明るい開放的な池の岸辺に沿ってパトロールしているかのように飛んでいる姿が観察できる。水面に腹部を打ちつけるように産卵する。

◆トンボ科

チョウトンボ

・観察時期：7～8 月
・観察適地： 水生植物が多い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 31～42mm
▶チョウのようにヒラヒラと飛翔。
▶白鳥庭園の清羽亭西、徳川園の西湖堤周辺など水生植物が多い池に多い。未熟な時は、樹冠あたりを群れで飛ぶ姿も観察できる。

コシアキトンボ

・観察時期：5～9 月
・観察適地： 樹林に囲まれた池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 40～50mm
▶腹部の黄白色の斑紋から、「腰明とんぼ」という和名となった。この斑紋は、未熟な時は黄色（右写真）だが、成熟すると白色（左写真）になる。未熟個体の間は樹林地で過ごし、成熟すると繁殖のため水辺に出てくる。

ショウジョウトンボ

・観察時期：5～9 月
・観察適地： 明るい池や湿地
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 38～55mm
▶羽化間もない未熟な個体は橙色であるが、成熟すると全身が真っ赤になる。水生植物がある明るい池で見られる。

ウスバキトンボ

・観察時期：7～10 月
・観察適地： 明るい池や草地
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 44～54mm
▶卵や幼虫の成長が早く、50 日程度で羽化して成虫になる。亜熱帯で羽化した個体は、世代を繰り返し北上する。愛知県に本種が飛来するのは 6 月頃からで、夏になると多くの個体が群れで飛ぶ。産卵し、羽化した個体はさらに北に移動していく。愛知県では、幼虫は越冬できず死滅するため、夏期のみの繁殖となる。

シオカラトンボ

・観察時期：5～10 月
・観察適地： 明るい池や湿地
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 47～61mm
▶4 月ごろから 9 月頃まで連続的に羽化が続く。未熟個体は麦わら色を呈している。
▶白鳥庭園と徳川園で、最もよく見られるトンボである。

オオシオカラトンボ

・観察時期：5～9 月
・観察適地：
樹林に囲まれた池や湿地
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 49～61mm
▶やや閉鎖的な水域で、5月から9月ごろにかけて見られる。成熟した♂は、青灰色の粉を帯びる。♀は黄色が目立つ。産卵はやや薄暗い湿地などで行う。

写真： 松沢孝晋、飯田康博

◆トンボ科：アカトンボ（*Sympetrum* アカトンボ属）の仲間

アキアカネ

・観察時期：9～10 月
・観察適地： 湿地や浅い池
・記録地：白鳥庭園・徳川園

体長 32～46mm
▶6～7 月ごろ平地の水田や湿地で羽化し、夏の間は高い山で過ごす。9 月頃から平地に戻りはじめ、繁殖活動に入る。
▶白鳥庭園、徳川園では、秋に枝先等に止まる個体が観察できる。

ナツアカネ

・観察時間：9～10 月
・観察適地： 湿地や浅い池
・記録地：白鳥庭園

体長 33～43mm
▶7 月ごろ平地の水田や湿地で羽化し、夏の間は近くの樹林地で過ごす。秋になると水辺に戻り、繁殖活動に入る。
▶白鳥庭園で確認されているが、個体数は少ない。

ノシメトンボ

・観察時期：9～10 月
・観察適地：湿地や浅い池
・記録地：白鳥庭園

体長 37～52mm
▶翅端に褐色斑がある。6～7 月ごろ平地の水田や湿地で羽化し、夏の間は近くの樹林地で過ごす。9 月になると水辺に戻り繁殖活動に入る。
▶白鳥庭園で確認されているが、個体数は少ない。

コノシメトンボ

・観察時期：9～10 月
・観察適地：湿地や浅い池
・記録地：白鳥庭園

体長 36～48mm
▶翅端に褐色斑がある。6～7 月ごろ平地の水田や湿地で羽化し、夏の間は近くの樹林地で過ごす。9 月になると水辺に戻り繁殖活動に入る。
▶白鳥庭園の植栽樹などに止まっている個体が観察できる。

リスアカネ

・観察時期：8～10 月
・観察適地：湿地や浅い池
・記録地：白鳥庭園

体長 31～46mm
▶翅端に褐色斑がある。6～7 月ごろ平地の樹林に囲まれた池や湿地で羽化し、夏の間は近くの樹林地で過ごす。8 月になると水辺に戻り繁殖活動に入る。
▶白鳥庭園で確認されているが、個体数は少ない。

マユタテアカネ

・観察時期：9～10 月
・観察適地： 湿地や浅い池
・記録地：徳川園

体長 30～43mm
▶頭部の額面に眉状の斑紋がある。6～7 月ごろ平地の水田や湿地で羽化し、近くの樹林地などで過ごす。8 月になると水辺に戻り、繁殖活動に入る。
▶徳川園で確認されているが、個体数は少ない。

ネキトンボ

・観察時期：9～10 月
・観察適地： 湿地や浅い池
・記録地：徳川園

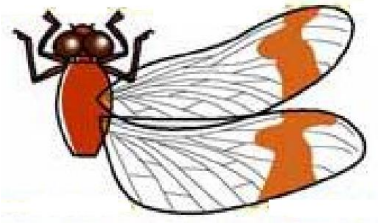
体長 38～48mm
▶翅の基部に褐色斑がある。5 月ごろから羽化がはじまり、未熟個体は近くの樹林地や山に移動する。7 月ごろから水辺に戻りはじめ、繁殖行動に入る。
▶秋に徳川園で植栽樹の枝先に止まる個体を確認した。

写真： 松沢孝晋

【コラム】　アカトンボの見分け方

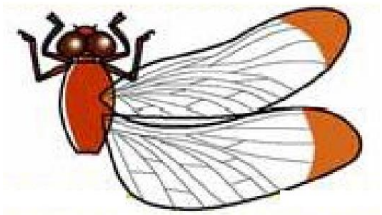
★見分け方１：翅（はね）の模様で分ける

② 翅の中が 褐色



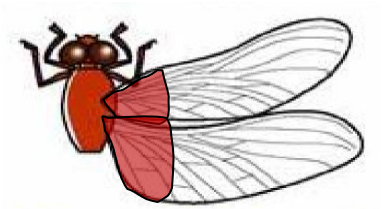
・ミヤマアカネ
（＊白鳥庭園・徳川園では未記録）

① 翅の先端が 褐色



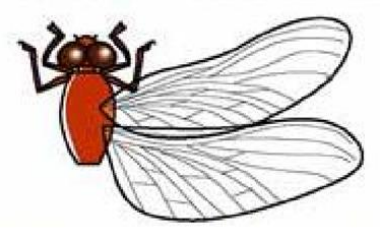
・ノシメトンボ
・コノシメトンボ
・リスアカネ
・マユタテアカネ
（＊透明の個体もある）

③ 翅の根元が 褐色



・ネキトンボ

④ 翅が 透明

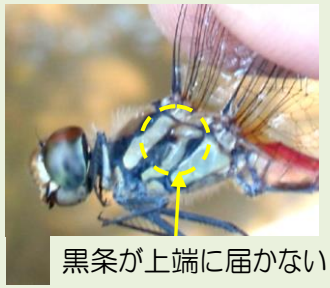


・アキアカネ
・ナツアカネ
・マユタテアカネ
（＊先端が茶色の個体もある）

★見分け方２：胸の模様で分ける

■ノシメトンボ／リスアカネ／コノシメトンボ：　翅の先が褐色のアカトンボ

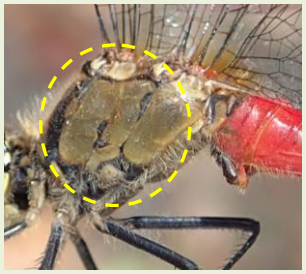
黒条が上端に届く
ノシメトンボ



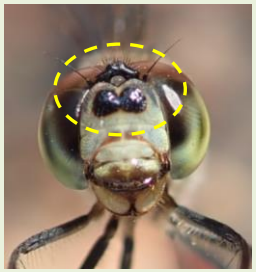
黒条が上端に届かない
リスアカネ

黒条が後方に流れる
コノシメトンボ

■マユタテアカネ：　胸部黒条が細い・頭部額面に眉状の斑紋がある



胸の黒条が細い

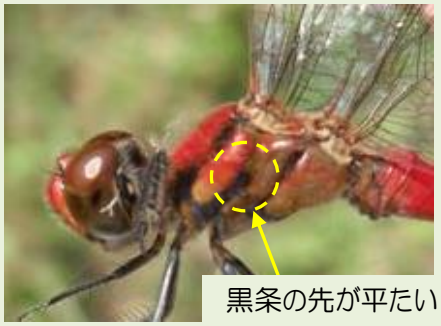


額面に眉斑がある

♂尾部付属器が反り返る

■アキアカネ／ナツアカネ：　翅が透明のアカトンボ

黒条の先がとがる
アキアカネ



黒条の先が平たい
ナツアカネ

トンボ マップ★白鳥庭園

上ノ池北岸（広い水面＋水際に延びる枝先）

*日当たりの良い **水際の樹木** にアキアカネが止まる♬*

広い水面： ギンヤンマ、シオカラトンボ、コシアキトンボなどが**飛翔**
樹木の枝先や杭の先： アカトンボ類の**休息場**（10 月）

中ノ池（広い水面＋水際の浮葉植物）

広い水面 を悠々と飛ぶトンボが観察できる♪

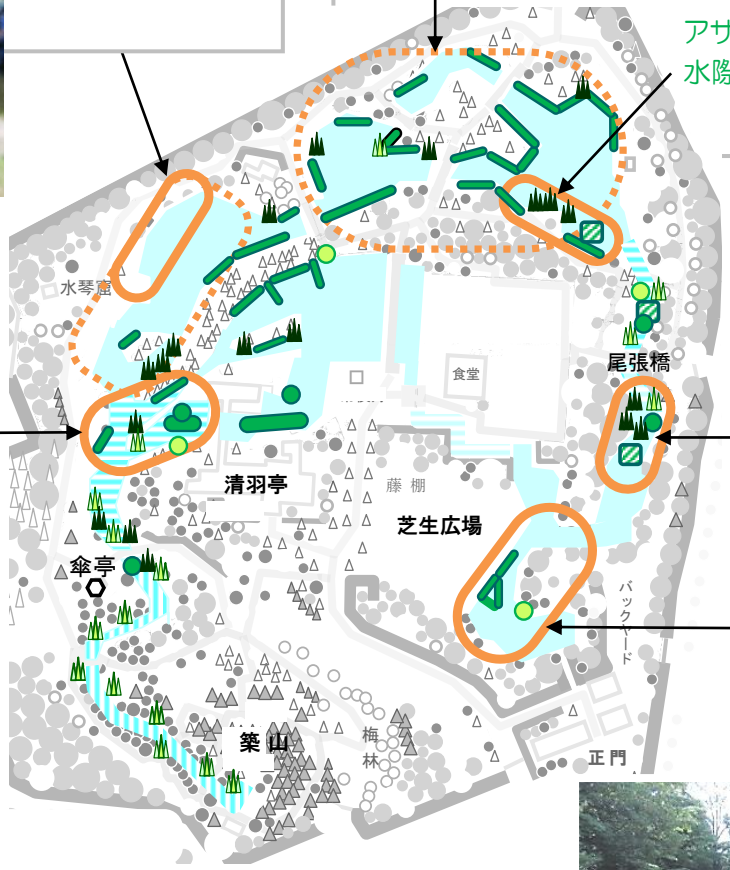
広い水面： ギンヤンマ、シオカラトンボ、コシアキトンボなどが**飛翔**

アサザなど浮葉植物、沈水植物： イトトンボ類の**産卵場**
水際の植物： タイワンウチワヤンマ
（止まりながら**探雌・摂食行動**）

清羽亭西（水面を覆う浮葉・抽水植物）

*浅い **湿地的環境** が魅力♬*

アサザなどの浮葉植物： イトトンボ類の**産卵場**
ヨシ帯（抽水植物）：
アオモンイトトンボの**休息場・交尾場・産卵場**
チョウトンボも水生植物の上をヒラヒラ



下ノ池（樹林に囲まれた水面＋浮葉・抽水植物）

多様性の高い下ノ池　個体数も多い♫

◆尾張橋南
樹林に囲まれた水面： クロスジギンヤンマが**飛翔**
水面に張り出した樹木：
オオアオイトトンボの**産卵場**
浮葉植物・沈水植物： イトトンボ類の**産卵場**
フトイ・ヨシ（抽水植物）：
シオカラトンボの**羽化場所**

◆芝生広場前
水面： ギンヤンマ、シオカラトンボが**飛翔**
水際の抽水植物：
アオモンイトトンボの**休息場・交尾場・産卵場**

ヨシ、コガマ、フトイ、マコモなど（葉の細長い **抽水植物**）

セキショウ、ハナショウブ、スギナ（葉の細長い **湿生・抽水植物**）

アサザ、スイレン、ハス、コウホネなど（葉の丸っこい **浮葉・抽水植物**）

ハンゲショウ（葉の丸っこい **湿生植物**）

沈水植物（水の中に沈んでいる植物）

トンボ マップ★徳川園

西湖堤周辺（水面の浮葉植物＋隣接する樹林）

種数・個体数ともに、園内で最多 ♫

*← **浮葉植物** が多い（♥イトトンボ類）＋ **樹林** に隣接（♥樹林好きタイプ）*

スイレン（浮葉植物）： クロイトトンボ、セスジイトトンボ などイトトンボ類の**産卵場**

樹林脇の水面： クロスジギンヤンマ、コシアキトンボ、タイワンウチワヤンマが**飛翔**

花菖蒲園（水路＋隣接する樹林）

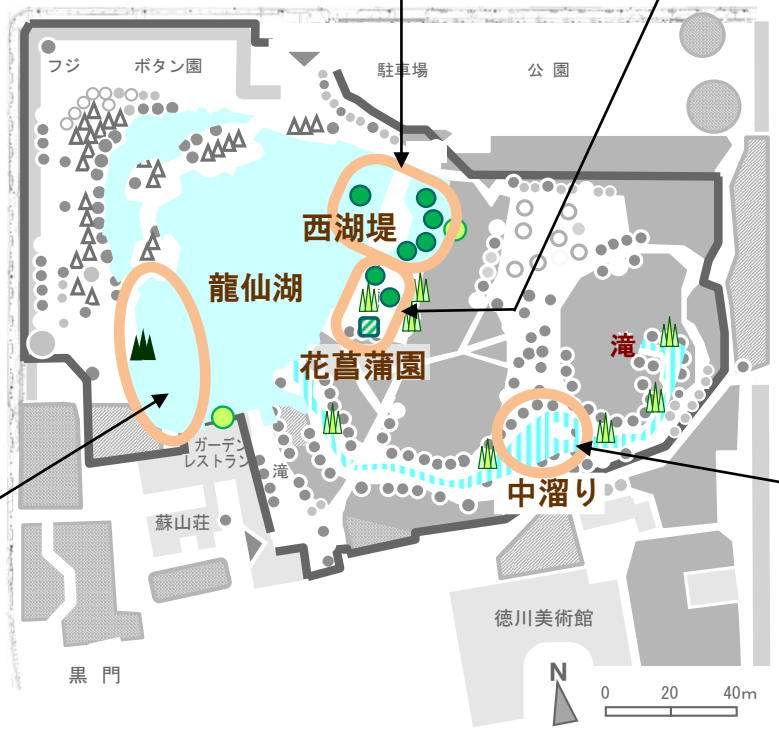
「樹林に囲まれた池」好きのトンボが目立つ。

（オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、クロスジギンヤンマなど）

*水田のような **湿地** があれば、「アカトンボ類」も増えるかも…♫*

水路： オオシオカラトンボ、クロスジギンヤンマなどの**産卵場**

ハナショウブ：オオシオカラトンボの**休息場**



龍仙湖（広い水面）

*「**広い水面**」を好むトンボが観察できる♪*

（水生植物が少ないため、

イトトンボ類は少ない）

広い水面：ギンヤンマ、オオヤマトンボ、

チョウトンボが**飛翔**

水際の石・草：

シオカラトンボ、アオモンイトトンボの**休息場**

中溜り（樹林に囲まれた水面）

園内で唯一、モノサシトンボが観察できる。

潜在的な多様性が高いため、

***水生植物** があれば、トンボはもっと増えるはず…♫*

水 面：コシアキトンボ※、シオカラトンボが**飛翔**

※ 腰がまだ黄色い未熟成虫をよく見かける。

樹木の周り：クロスジギンヤンマ、

ギンヤンマ、チョウトンボが**摂食**

水際の草：モノサシトンボの**休息場**

ヨシ、コガマ、フトイ、マコモなど（葉の細長い **抽水植物**）

セキショウ、ハナショウブ、スギナ（葉の細長い **湿生・抽水植物**）

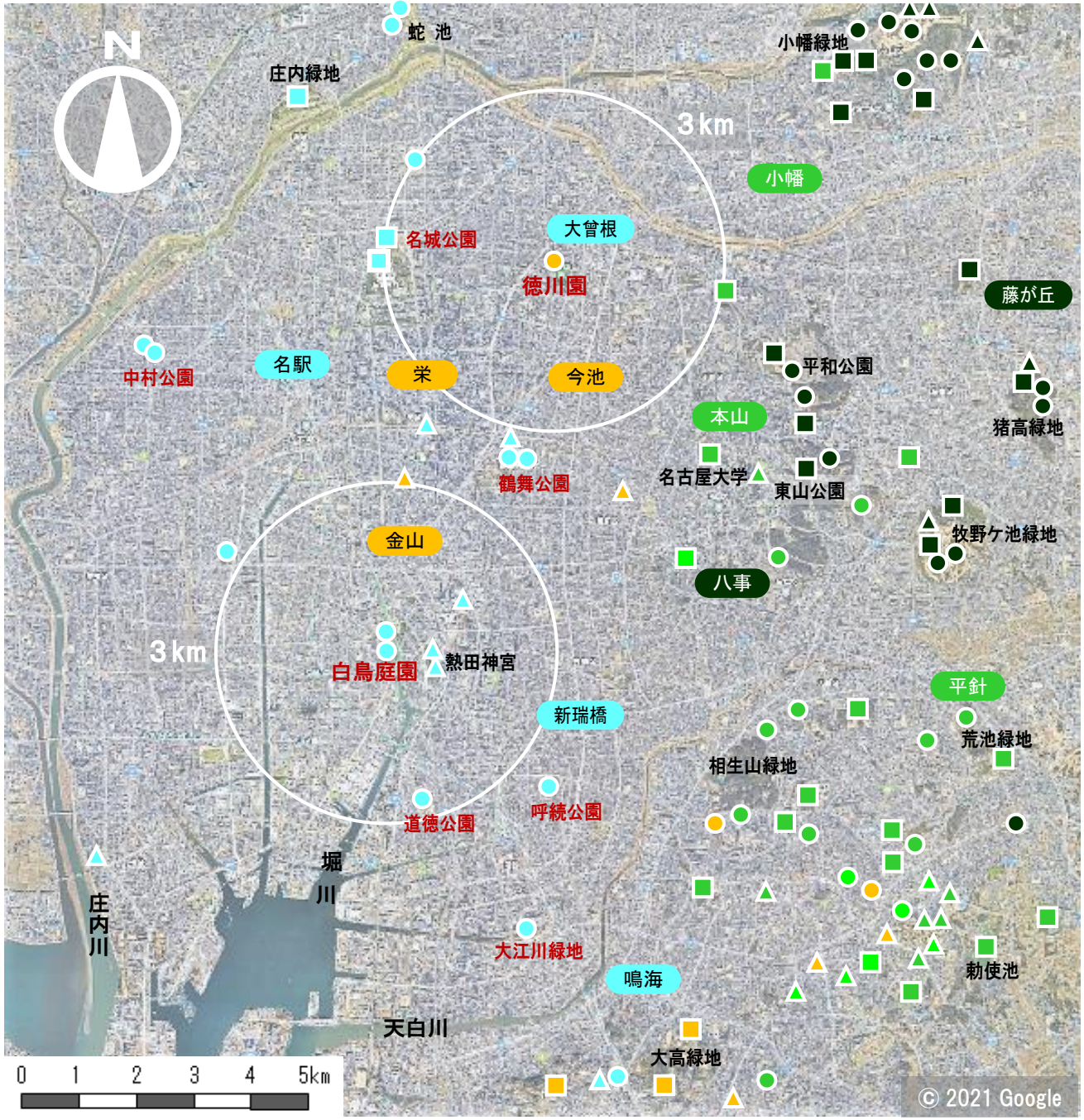
アサザ、スイレン、ハス、コウホネなど（葉の丸っこい **浮葉・抽水植物**）

ハンゲショウ（葉の丸っこい **湿生植物**）

沈水植物（水の中に沈んでいる植物）

写真：松沢孝晋、川口暢子

【コラム】　名古屋の池の分布 と トンボ観察記録



東部丘陵

大規模緑地内をはじめ、ため池が多く分布。
ため池間の距離は比較的近接している。
（水辺のネットワークが辛うじて残っている）

中・西部（台地・沖積低地）

市街地公園の池が主体。
社寺境内等の小規模な池も散見される。
池の分布はいたってまばら（相互に孤立）。

＊ トンボの居場所が狭まっている市街地の中で、
限られた空間に多様な地形（環境）**をギュッと圧縮した日本庭園**（徳川園、白鳥庭園）は、
トンボにとってオアシスのような存在。

	標高10m未満	標高10m以上	標高20m以上	標高40m以上
1 ha 以上の池	■	■	■	■
1 ha 未満の池	●	●	●	●
0.1 ha 未満の池	▲	▲	▲	▲

＊池の所在・規模・標高を、
地理院地図（電子国土 Web）によって把握し作成。
赤字：トンボ調査を行った公園。
（いずれも市内中･西部＝台地～沖積低地）

観 察 記 録

白鳥庭園・徳川園のほか、市街地公園６か所でトンボ調査を実施。参考として、東部丘陵大規模緑地のデータも掲げた。

生息のための主要環境要素	科 名	種 名	確認地区数	鶴舞公園	呼続公園	白鳥庭園	徳川園	大江川緑地	名城公園	中村公園	道徳公園	（参考）東山公園	（参考）猪高緑地
合 計 種 数				25	22	21	20	20	18	12	11	37	36
1 水 面	ヤンマ	**ギンヤンマ**	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**シオカラトンボ**	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**ウスバキトンボ**	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**ショウジョウトンボ**	7	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	サナエトンボ	**タイワンウチワヤンマ**	7	○	○	○	○		○	○	○		
	エゾトンボ	**オオヤマトンボ**	5	○		○	○		○	○		○	○
	サナエトンボ	ウチワヤンマ	2	○					○			○	○
				7	5	6	6	4	7	5	5	6	6
2 水 面 水生植物	イトトンボ	**アオモンイトトンボ**	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	イトトンボ	**アジアイトトンボ**	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	イトトンボ	**クロイトトンボ**	6	○	○	○	○	○			○	○	○
	トンボ	**チョウトンボ**	6	○	○	○	○	○	○			○	○
	アオイトトンボ	**アオイトトンボ**	3	○	○						○		○
	イトトンボ	**ムスジイトトンボ**	3		○	○	○ *2						
	モノサシトンボ	**モノサシトンボ**	3	○	○		○					○	○
	トンボ	ヨツボシトンボ	2	○				○					○
	トンボ	コフキトンボ	1						○			○	○
	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ	1		○							○	
	イトトンボ	セスジイトトンボ	1				○					○	
		その他	—									1	1
				7	8	5	7	5	4	2	4	9	9
3a 水 面 樹 林	トンボ	**コシアキトンボ**	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンボ	**オオシオカラトンボ**	7	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	ヤンマ	**クロスジギンヤンマ**	6	○	○	○	○	○		○		○	
	アオイトトンボ	**オオアオイトトンボ**	4	○	○	○		○				○	○
	トンボ	シオヤトンボ	2	○	○							○	○
	ヤンマ	カトリヤンマ	1						○			○	○
	エゾトンボ	タカネトンボ	1						○ *2				
				5	5	4	3	4	4	3	1	6	5
3b 水 面 水生植物 樹 林	ヤンマ	マルタンヤンマ	2	○					○				○
	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	1					○					○
		その他	—									1	1
				1				1	1			1	3
4a 湿 地	トンボ	**アキアカネ**	7	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	トンボ	**コノシメトンボ**	3			○		○	○				○
	トンボ	ナツアカネ	2		○	○						○	○
	トンボ	ノシメトンボ	2	○		○ *1						○	○
	トンボ	ハラビロトンボ	1					○				○	○
		その他	—									4	2
				2	2	4	1	3	1	1	1	8	7
4b 湿 地 樹 林	トンボ	**マユタテアカネ**	5	○	○		○	○	○			○	○
	トンボ	**リスアカネ**	4	○		○		○		○		○	○
	トンボ	ネキトンボ	2				○	○					○
		その他	—									2	2
				2	1	1	2	3	1	1		4	5
5 流 水	オニヤンマ	オニヤンマ	2	○	○							○	○
	カワトンボ	ハグロトンボ	1			○ *1	○					○	
		その他	—									1	
				1	1	1	1					3	1

◆ 主要な市街地公園では、20 種前後のトンボが見られる。
　　＊東部丘陵の大規模緑地では、30 数種が確認されている。

◆ 水面 を主要要素とする種では、大規模緑地と市街地公園の差が少ない。
　　＊ギンヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボは、どこでも常連。
　　＊ウチワヤンマは丘陵地、タイワンウチワヤンマは市街地に多い。

◆ 水生植物好き のトンボ種数は、水生植物の多寡に左右される。
　　＊イトトンボ類の多い呼続公園 ／ 少ない中村公園。

◆ 樹林好き のトンボの多い鶴舞公園 ／ 少ない道徳公園。

◆ 湿地好き （アカトンボ類）の多い大江川緑地 ／ 白鳥庭園も健闘。

◆ 流水好き のトンボは、市街地公園には少ない。

注 1）**種名の色**　**赤字**：**7 割以上**の地区で確認 ／ **青字**：**3 割以上**の地区で確認 ／ **黒字**：確認地区が **3 割未満**。

注 2）**調査地区、調査期間**

徳川園（東区）2018.4～11 ／ 名城公園（北・中区）2015.4～10 ／
中村公園（中村区）2019.4～10 ／ 鶴舞公園（昭和区）2017.4～10，2018.4～10 ／
白鳥庭園（熱田区）2016.4～10 ／ 道徳公園（南区）2019.4～10 ／
大江川緑地（同）2019.4～10 ／呼続公園（同）2014.5・9，2017.4～10，2018.4～9

注 3）**文献からの記録**

*1：飯田康博による記録（2011～17 の写真撮影記録）。
*2：高崎保朗「名古屋の蜻蛉目総括，今と昔」なごやの生物多様性 5：107－111（2018）
東山公園（千種区）：
　株式会社プレック研究所「東山公園及び平和公園環境調査業務委託調査報告書」2008
猪高緑地（名東区）：
　高崎保朗「名古屋市名東区猪高緑地の蜻蛉と蝶」なごやの生物多様性 4：89－106（2017）

蝶 の 食草（幼虫のエサ）

チョウの幼虫は、木や草の葉を食べて育ちます。
公園や道端、庭などで見かける木や草が、実はイモ虫・青虫たちの食料なんです。
葉っぱが虫に食われちゃった…と嘆くあなた、
チョウを育てるためのおすそ分け…と考えなおしてみませんか？

● アゲハチョウ科
○ シロチョウ科
△ シジミチョウ科
◆ タテハチョウ科
▲ セセリチョウ科

クスノキ

●アオスジアゲハ

ミカン／カラタチ／サンショウ類

●ナミアゲハ
●ナガサキアゲハ
●クロアゲハ
●モンキアゲハ

エノキ

◆ゴマダラチョウ

◆テングチョウ

ハギ

△ウラナミシジミ

△ツバメシジミ

アラカシ

△ムラサキシジミ

マテバシイ

尾状突起が目印↓

△ムラサキツバメ

フジ

△ウラギンシジミ

カタバミ

△ヤマトシジミ

ススキ等のイネ科

▲イチモンジセセリ

ヤナギ類

◆コムラサキ

アブラナ／イヌガラシ等

〇モンシロチョウ

スミレ類

◆ツマグロヒョウモン　♂／♀

ホトトギス

◆ルリタテハ

ヤマトシジミの交尾

ツマグロヒョウモンの交尾

スミレに産卵するツマグロヒョウモン

カラタチ／サンショウに産卵するナミアゲハ

写真：　飯田康博、河崎泰了、加藤正嗣

蝶 の 蜜源（成虫のエサ）

ナミアゲハ、アオスジアゲハは、市街地で見かけるチョウの代表格です。
彼らが季節を問わず姿を見せてくれるのは、春はツツジ、初夏はセンダン、夏～秋口はヤブカラシ…という具合に**蜜源のリレー**がつながっているおかげです。
蜜源のリレーが途切れると、チョウの出現も途切れます。
秋のウラナミシジミやキタキチョウのように、季節限定で姿を見せるチョウもいます。
彼らの出現時期と蜜源の開花時期のマッチングも、重要なポイントです。

花ではなく、樹液や腐果を蜜源とするチョウもいます。主に、森林性のチョウです。

	樹液	腐果	獣糞
△ムラサキツバメ	●		
△ムラサキシジミ	●		
△ウラギンシジミ		●	●
◆コムラサキ	●		●
◆ルリタテハ	●	●	
◆ゴマダラチョウ	●	●	

S 白鳥庭園にあり
T 徳川園にあり

● アゲハチョウ科
○ シロチョウ科
△ シジミチョウ科
◆ タテハチョウ科
▲ セセリチョウ科

ツツジ類（ 4−5 月 ）
●ナミアゲハ
●ナガサキアゲハ
●クロアゲハ　●キアゲハ

シャリンバイ（ 5 月 ）
●アオスジアゲハ
●ナガサキアゲハ
●クロアゲハ
◆ツマグロヒョウモン

センダン（ 5 月 ）
●アオスジアゲハ
●ナミアゲハ

アベリア（ 5−11 月 ）
●ナミアゲハ
○モンシロチョウ
△ヤマトシジミ
◆ツマグロヒョウモン
▲イチモンジセセリ、▲チャバネセセリ

カクレミノ（ 7−8 月 ）
●アオスジアゲハ

クサギ（ 8−9 月 ）
●クロアゲハ
●ナガサキアゲハ
●モンキアゲハ

ハ　ギ（ 8−9 月 ）
△ウラナミシジミ
△ヤマトシジミ
△ツバメシジミ、△ルリシジミ
○キタキチョウ
▲イチモンジセセリ

タンポポ（3−4 月）
○モンシロチョウ
●ナミアゲハ
△ベニシジミ

カタバミ（5−7 月）
○モンシロチョウ
△ヤマトシジミ

ヤブカラシ（7−9 月）
●ナミアゲハ
●アオスジアゲハ
◆ツマグロヒョウモン

オミナエシ（8−10 月）
●ナミアゲハ
△ヤマトシジミ
◆ツマグロヒョウモン
◆ヒメアカタテハ
▲イチモンジセセリ

ツワブキ（10−12 月）
○キタキチョウ
△ヤマトシジミ
◆ツマグロヒョウモン
◆ヒメアカタテハ
◆アサギマダラ

アブラナ（3−4 月）
○モンシロチョウ
△ベニシジミ
●ナミアゲハ
●アオスジアゲハ

イヌガラシ（4−6 月）
○モンシロチョウ

オニユリ（7−8 月）
●ナミアゲハ、●クロアゲハ
●ナガサキアゲハ
●モンキアゲハ

フジバカマ（8−10 月）
◆アサギマダラ　◆ツマグロヒョウモン
△ヤマトシジミ　○キタキチョウ
▲イチモンジセセリ

ムラサキハナナ（4 月）
○モンシロチョウ
●ナミアゲハ

ノアザミ（5−6 月）
●ナミアゲハ、●キアゲハ
●モンキアゲハ
○モンシロチョウ
◆ツマグロヒョウモン

ソバ（7-8 月／9-10 月）
●ナミアゲハ、●キアゲハ
△ヤマトシジミ
◆ツマグロヒョウモン
◆ヒメアカタテハ

ヒヨドリバナ（8−10 月）
◆アサギマダラ
◆ツマグロヒョウモン
◆ミドリヒョウモン

ヒガンバナ（9 月）
●ナミアゲハ

写真：　飯田康博、
河崎泰了、　加藤正嗣

チョウ マップ ★ 白鳥庭園

＊観察記録は P. 36

チョウは、樹林のふちなどの **陽だまり** を好んで飛びます。
幼虫のエサとなる草木の若葉（ **食草** ）に卵を産み、花や樹液（ **蜜源** ）で吸蜜します。羽化直後には、濡れた地面で**吸水**する光景も見られます。

＊ **庭園外周**を縁取る ▭ 植栽帯は森林性のチョウの食草や蜜源の帯

- 主木： □クスノキ（アオスジアゲハの食草）
- 生垣： □アラカシ（ムラサキシジミの食草）
- 低木植栽： ● ツツジ（アゲハ類の蜜源）など

池の西岸　♬*個体数が最も多い*

水琴窟前の日当たりよい低木帯＆草地。
ミニ・バタフライガーデン化できるかも…♬

春～秋口 **アオスジアゲハ**（8-9月 ヤ ヤブカラシの花）、**ナミアゲハ**
ツマグロヒョウモン（草地に スミレ）
秋 **ヤマトシジミ**急増（ツツジの根元や草地に ☆カタバミ）
秋深まると**キタキチョウ**（11-12月 ツワブキの花）

清羽亭周辺　♪ *しっとりした茶庭*

秋 **ツバメシジミ、イチモンジセセリ**（9月 ハギの花）
濡れた敷石や手水鉢での吸水も（**ゴマダラチョウ**）。

梅　林　♬*個体数が二番目に多い*

築山の麓のちょっと開けた里地的な環境。
多様な食草・蜜源を生育させる潜在力あり♬

春～秋口 **アオスジアゲハ**（5月 シ シャリンバイの花）
秋 **ヤマトシジミ**が急増（梅の根元に ☆カタバミ）

池の北岸　♪ *木漏れ日やさしい園路*

春～秋口 **アオスジアゲハ、ナミアゲハ**
秋 **ヤマトシジミ、イチモンジセセリ**（9月 ハギの花）

北門周辺　♪ *日当り良好*

春～秋口 **アオスジアゲハ、ナミアゲハ**　**秋** **ウラギンシジミ**

池の東岸　♪ *木漏れ日やさしい園路*

春～秋口 **アオスジアゲハ**（5月 セ センダンの花）。

芝生広場　♪ *園内では希少な草地*

春～秋口 **アオスジアゲハ**。 **黒系アゲハ**（6-7月 ネムの花）
ツマグロヒョウモン（ スミレ 2020 補植）

導 入 路　♪ *左手にツツジの大刈込*

春～秋口 **ナミアゲハ、アオスジアゲハ**（5月 ツツジ）
秋 **ヤマトシジミ**（ツツジの根元に ☆カタバミ）

食　草（幼虫のエサ）

- ▭ クス、アラカシ、マテバシイ
- ♠ ミカン科（イヌザンショウ、カラタチ）
- ▲ ヤナギ　♠ エノキ
- △ ススキ
- ♥ フジ
- ♥ ネムノキ
- スミレ
- ☆ ホトトギス

蜜　源（成虫のエサ）

- ♥ ハギ
- ☆ カタバミ
- イヌガラシ
- チョウの好きな 陽だまり
- ツツジ類
- シ シャリンバイ
- セ センダン
- ア アベリア
- ヤ ヤブカラシ
- タンポポ
- ★ オニユリ
- オミナエシ
- フジバカマ
- ツワブキ

チョウ マップ ★ 徳川園

＊観察記録は P. 35

徳川園・白鳥庭園でほぼ通年（冬を除く）見られる御三家は、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ヤマトシジミ。
ただし、アオスジアゲハやナミアゲハは秋が深まると影が薄くなり、逆にヤマトシジミは秋になると急増します。
ツマグロヒョウモンも、季節を問わず 割と見られます。
モンシロチョウ（春～初夏）、キタキチョウ、ウラギンシジミ、ウラナミシジミ、イチモンジセセリ（秋）などは、出会える季節が限られます。

ボタン園 ♪ *管理が徹底*

秋 **ヤマトシジミ**（ボタンや植込の根元に☆カタバミ自生）。
通年 **ツマグロヒョウモン**を時折見かける（周辺の生垣）。

池の北岸 ♪ *コイへのエサやりスポット*

日当り良好で、**アゲハ類**がよく通る。
手水鉢付近の水たまりで吸水も…。

芝生広場、ウメ・モモの疎林

♪ *林の中にポッカリ空いた明るい空間*

春～秋口 **アオスジアゲハ、ナミアゲハ**が主役
（5-6月 ㋝センダン、8月 ㋕カクレミノの花）
テングチョウを見かけることも（♠エノキ近く）
秋 **ヤマトシジミ**が主役。

池の西岸 ♫ *個体数が最も多い*

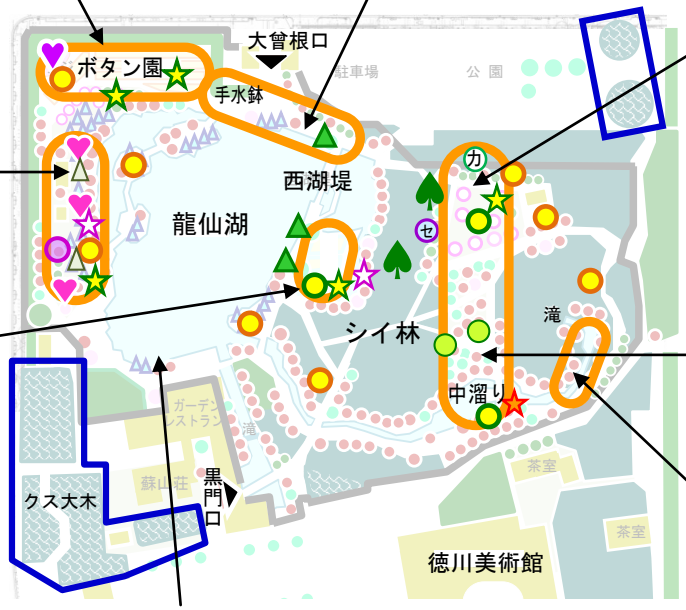
日当り良好、樹種豊富。日向・日陰のバランスよい。

春～秋口 **ナミアゲハ、アオスジアゲハ**が主体。
秋 **ヤマトシジミ**が急増して主役に。
9月♥ハギには、**ウラナミシジミ**が群舞。
晩秋の ● ツワブキには **キタキチョウ**。

花菖蒲園 ♫ *種数が最も多い*

*日当り良好な**湿生環境**、樹林に隣接、ハナショウブの足元にカタバミなど自生…。多様な可能性あり♫*
（10月以降は日陰が多くなり、チョウは減少）

春～秋口 **ナミアゲハ、アオスジアゲハ**
（湿った地面で吸水も…）
春～初夏 **モンシロチョウ**
秋 **ヤマトシジミ**（ハナショウブの根元に☆カタバミ）
ヒガンバナで **ナミアゲハ**が吸蜜。



州浜はチョウの水飲み場。

渓流中溜り周辺 ♫ *種数が最も多い*

ややワイルドな草地・疎林、多様な可能性あり♫
林の中にポッカリ空いた明るい空間。
高木の枝を払い、日当りを良くすると…
チョウもトンボも、さらに増えそう♫

春 **ベニシジミ**を見かけることも…。
春～秋口 **アオスジアゲハ**が多い。
秋 **ウラギンシジミ**（梢近く）、**キタキチョウ**。

滝口付近 ♪ *チョウの道*

上空を見上げると、
樹冠の切れ目を**アゲハ類**が飛ぶ姿を見かける。

食　草（幼虫のエサ）　　**蜜　源**（成虫のエサ）

- クス、アラカシ、マテバシイ
- ミカン科（イヌザンショウ、カラタチ）
- ヤナギ
- エノキ
- ススキ
- フジ
- ネムノキ
- スミレ
- ホトトギス
- ハギ
- カタバミ
- イヌガラシ
- チョウの好きな陽だまり
- ツツジ類
- シャリンバイ
- ㋝センダン
- アベリア
- ㋕カクレミノ
- タンポポ
- オニユリ
- オミナエシ
- フジバカマ
- ツワブキ

白鳥庭園・徳川園のチョウ

森林性のチョウ

●アオスジアゲハ

●ナミアゲハ

アゲハ類は春～秋口の主役。

クスノキに卵を産むため、園の内外にクスノキの多い白鳥庭園・徳川園ではよく見かけます。

ナミアゲハの幼虫は、ミカン科（カラタチ、サンショウなど）の葉を食べて育ちます。

季節を問わず見かける

S 白鳥庭園
T 徳 川 園

● アゲハチョウ科
○ シロチョウ科
△ シジミチョウ科
◆ タテハチョウ科
▲ セセリチョウ科

草原性のチョウ

△ヤマトシジミ

年中みられますが秋には急増。

草地や植込みの足元などに生えるカタバミが、食草・蜜源。

◆ツマグロヒョウモン ♂／♀

元来は暖地性ですが、近年はすっかりおなじみに…。

幼虫のエサはスミレの葉、成虫は多様な花で蜜を吸います。

△ウラギンシジミ

秋になると、樹冠や林縁に銀白色の翅が映えます。

幼虫のエサはマメ科、成虫の蜜源は腐果や獣糞です。

○キタキチョウ

秋が深まると市街地にも下りてきて、成虫のまま越冬します。ハギやツワブキの蜜を吸います。

春 or 秋に見かける

春先に、越冬明けの個体を見かけることも…。

○モンシロチョウ

春～初夏。

アブラナ科に卵を産み、タンポポなど多様な花で吸蜜します。

△ウラナミシジミ

秋、ハギに群らがる姿を見かけます。

▲イチモンジセセリ

秋、ハギなどで蜜を吸います。イネ科（チガヤなど）が食草。

運が良いと出会える

●クロアゲハ

やや暗い所が好き。

●ナガサキアゲハ

●モンキアゲハ

元来暖地性のナガサキアゲハやモンキアゲハですが、最近は結構見かけるようになりました。

▲キマダラセセリ

イチモンジセセリと同様にイネ科が食草。

△ルリシジミ

マメ科（ハギなど）やタデ科（イタドリなど）が食草。

△ムラサキツバメ

△ムラサキシジミ

どちらも照葉樹林好きで、日中は不活発。
ムラサキツバメはマテバシイ、
ムラサキシジミはアラカシが食草。
ムラサキツバメには尾状突起がある。

◆ルリタテハ

ホトトギスやサルトリイバラに産卵。
腐果や獣糞で吸蜜。

◆テングチョウ

◆ゴマダラチョウ

食草：エノキ。
蜜源：各種花（テング）、腐果・樹液（ゴマダラ）
羽化直後、路上の湿った所などで吸水。

◆アサギマダラ

秋、南の島へ渡る途中で立ち寄って栄養補給（2020は10月下旬だった）。

写真： 飯田康博、河崎泰了

●キアゲハ

セリ科（セリ、ミツバ、パセリなど）が食草。

○モンキチョウ

マメ科（シロツメクサ、レンゲなど）が食草。

▲チャバネセセリ

イチモンジセセリと同様、秋に見かけます。イネ科が食草。

△ベニシジミ

スイバやギシギシ類が食草。

△ツバメシジミ

ヤマトシジミと似ていますが、橙色斑紋と尾状突起が目印。

◆ヒメアカタテハ

秋、明るい草地が好き。都市部では秋になると個体数が増加します。

◆キタテハ

カナムグラが食草。明るい草地が好き。

◆ヒメウラナミジャノメ

イネ科が食草。草地の上をチョコチョコ跳ねるように飛びます。

アオムシ・イモムシ

若齢幼虫

終齢幼虫

サナギ

成　虫

ナミアゲハ

アオスジアゲハ

ナガサキアゲハ

チョウの卵が成虫になる確率は、
100 個のうち１個か２個。
天敵がたくさんいます。

鳥、トカゲ、クモ、カマキリ、アリ、
アオムシコマユバチ（寄生）、
アシナガバチ、カメムシ、ダニ、…

チョウは、１－２か月かけて卵から成虫になります。
この長さは、種によって、あるいは季節によって違います。

- **卵**（モンシロチョウの場合約１㎜）
- **幼　虫**

  幼虫の間に**脱皮**を３−４回繰り返し、そのたびに大きくなります。この間、すごい食欲で、食草となる葉っぱを食べ続けます。（このためモンシロチョウのアオムシは、キャベツの害虫とされています）
- **サナギ**

  サナギになるとき、それまでいた葉っぱから移動します。植物の茎や枝だけでなく、塀や軒先など人工物に張りつくこともあります。
- **成　虫**

  幼虫やサナギからは想像できない姿に変身し、２週間～１か月ほどの寿命の間に交尾・産卵します。

写真：河崎泰了、飯田康博、早川雅美、鈴木竜也

モンシロチョウ

ツマグロヒョウモン

チョウは、こうした世代交代を、年に３－４回繰り返します。
そして冬になると…

- **成虫で越冬**

  〇キタキチョウ
  △ムラサキシジミ、
  　ムラサキツバメ、
  　ウラギンシジミ
  ◆テングチョウ、ルリタテハ、
  　キタテハ、アカタテハ
- **サナギで越冬**

  ●大半のアゲハチョウ科
  〇モンシロチョウ
  △ルリシジミ
- **幼虫で越冬**

  〇モンキチョウ
  △ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ベニシジミ
  ◆ツマグロヒョウモン、コムラサキ、
  　ゴマダラチョウ、ヒメアカタテハ、
  　アサギマダラ（成虫の渡りも）、
  　ヒメウラナミジャノメ
  ▲イチモンジセセリ、チャバネセセリ、
  　キマダラセセリ
- **卵で越冬**

  △アカシジミ、ミドリシジミ

【コラム】　名古屋のチョウ

種数・個体数を見ると、面積 50ha 前後の**東山くらしの森**と**名城公園**が双璧。20ha 級の公園が、これに続きます。

主要な公園 9 地区の全てで見られた**ポピュラーなチョウ**は…

森林性　：　**4 種**（アオスジアゲハ、ナミアゲハ、キタキチョウ、ウラギンシジミ）

草原性　：　**4 種**（モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ）

森林性のチョウ	出現地区数	徳川園	白鳥庭園		熱田神宮	白鳥公園・断夫山周辺	鶴舞公園	天白公園	山崎川瑞穂公園	名城公園	東山くらしの森
調査年		19年	18年	20年	2013年			14年	2013年		
調査回数		16	16	14	9	9	9	10	11	9	8
面　積		2ha	3ha		20ha	19ha	24ha	26ha	27ha	60ha	49ha
種　数		9	11	7	5	10	8	12	6	13	19
個体数（調査１回平均）		7	8	12	7	10	12	11	20	43	31
アオスジアゲハ	9	■	■	■	■	■	■	○	■	■	■
ナミアゲハ	9	●	○	□	□	●	■	■	■	■	■
クロアゲハ	6	△	△			△	△	○	△		
ナガサキアゲハ	6	＊	○	△	△	△				○	○
ジャコウアゲハ	2							△		△	
カラスアゲハ	2							△		△	
ミヤマカラスアゲハ	1									△	
モンキアゲハ	1	△		＊							
キタキチョウ	9	○	△	●	△	△	●	■	■	△	■
ウラギンシジミ	9	●	△	△	▲	▲	△	△	△	△	■
ムラサキシジミ	4	△	△	△				△			○
ルリシジミ	2		△								△
アカシジミ	1										△
ミズイロオナガシジミ	1										△
ムラサキツバメ				＊							
テングチョウ	6	△	△				△	△		△	△
ルリタテハ	5	△	△			△				△	○
ミドリヒョウモン	4			＊		△		△	△		▲
ゴマダラチョウ	3			＊		△		△			△
コムラサキ	3						△			△	○
アカタテハ	2					△				▲	
アサギマダラ	2	＊	△	△						△	
ヒオドシチョウ	1						△				
メスグロヒョウモン	1										△
コミスジ	1										△
ヒメジャノメ	2							△			○
サトキマダラヒカゲ	1										△
キマダラセセリ	1			＊							△

草原性のチョウ	出現地区数	徳川園	白鳥庭園		熱田神宮	白鳥公園・断夫山周辺	鶴舞公園	天白公園	山崎川瑞穂公園	名城公園	東山くらしの森
調査年		19年	18年	20年	2013年			14年	2013年		
調査回数		16	16	14	9	9	9	10	11	9	8
面　積		2ha	3ha		20ha	19ha	24ha	26ha	27ha	60ha	49ha
種　数		6	7	10	5	9	8	10	11	11	13
個体数（調査１回平均）		6	7	8	7	47	28	48	64	86	123
キアゲハ	2			△							●
モンシロチョウ	9	▲	△	○	△	■	■	■	■	■	■
モンキチョウ	7		△	△		○	△	■	▲	▲	■
ヤマトシジミ	9	■	■	■	●	■	■	■	■	■	■
ウラナミシジミ	7	▲	▲	△		△	●		●	▲	○
ツバメシジミ	6			△		△		●	△	△	●
ベニシジミ	5	△						○	■	■	■
ツマグロヒョウモン	9	△	△	○	▲	■	■	■	■	■	■
ヒメアカタテハ	8			△	△	△	○	○	●	△	●
キタテハ	4			＊				△	△	△	○
ヒメウラナミジャノメ	3			△						△	●
イチモンジセセリ	9	△	▲	○	△	▲	○	△	▲	●	●
チャバネセセリ	6		△			▲	▲	△	△		△

１回あたり確認個体数（確認した個体数の合計 ÷ 確認のあった調査回数）

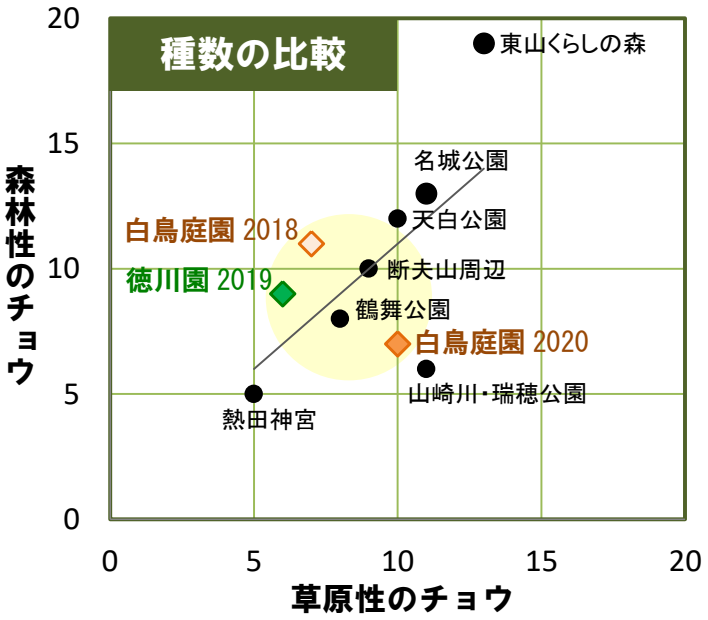
出現頻度（確認のあった調査回数 ÷ 調査回数）

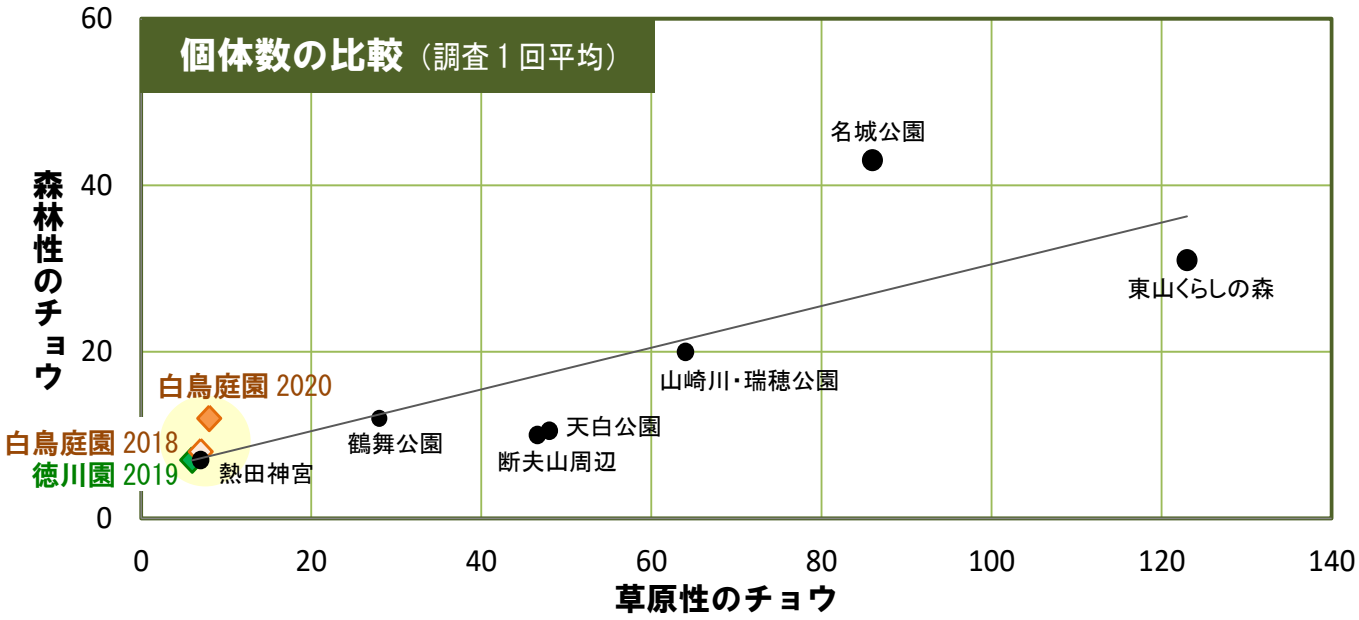
10頭/回以上	3頭/回以上	3頭/回未満	
■	■	□	65%以上（季節によらずよく見かける）
●	●	○	35%以上
▲	▲	△	35%未満（見かける季節が限られる）

2013・14 調査：「名古屋蝶の飛ぶまちプロジェクト 2014 報告書」による。

2018～20 調査：都市の自然のモノサシ研究会調べ(P. 35-36 参照)。

＊：上記調査以外で確認記録のあるもの。





＜ 種　数 ＞

東山くらしの森がダントツ（32 種＝森林性 19 種＋草原性 13 種）。
名城公園、**天白公園**がこれに続く。

大半の地区では、森林性と草原性の種数に大きな違いはない。
＊ただし**東山くらしの森**では、森林性の種数が、
山崎川・瑞穂公園では、草原性の種数がかなり多い。

白鳥庭園、徳川園は、
３ha 前後の規模ながらも、20ha 級の公園とほぼ同水準。
20ha 級平均：　17 種（森林性８種、草原性９種）
徳 川 園 2019：　15 種（森林性９種、草原性６種）
白鳥庭園 2018：　18 種（森林性 11 種、草原性７種）
白鳥庭園 2020：　17 種（森林性７種、草原性 10 種）
＊徳川園 2019、白鳥庭園 2018 では、森林性の種数の方が多かった。
白鳥庭園 2020 では、森林性が４種減る一方、草原性が３種増えた。

＜ 個体数 ＞

草原性では…**東山くらしの森**（ヤマトシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウなど）、
森林性では…**名城公園**（ナミアゲハ、アオスジアゲハなど）が、最も多い。

大半の地区では、草原性の個体数が森林性を大幅に上回っている。
＊草原性のチョウは、個体数の多いものが多い。
（モンシロチョウ、ヤマトシジミなど）

白鳥庭園、徳川園の個体数は、**面積に相応の水準**。
ただし、**森林性の個体数の方が多いのが特徴**。
＊白鳥庭園 2020 の森林性は、種数が減少したものの個体数は増加した。
（この年は、アオスジアゲハがほぼ倍増した）

観察記録

徳川園 2019		年間合計	季節別																地区別							
			4月			5		6	7		8		9		10		11		池の西岸	ボタン園	池の北岸	花菖蒲園	芝生広場	中溜り周辺	滝口	渓流下流部
			13日	20	27	11	25	22	13	28	10	24	14	28	13	27	9	23								
			晴	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	晴	曇	晴	曇	晴	晴								
			14℃	18	15	23	26	26	23	29	33	27	27	26	27	24	15	15								
種数		15																	9	8	6	10	7	10	4	1
個体数		218	5	8	14	18	21	10	8	7	10	9	18	28	24	19	9	10	61	32	17	37	25	34	11	1
アゲハチョウ類	アオスジアゲハ（通年）	34			6	4	2	1	2	4	6	3	3	2	1				6	1	4	6	5	8	4	
	ナミアゲハ（通年）	37	3	4	5	5	5	3	4		2	1	2	3					11	4	6	8	3	2	3	
	クロアゲハ	1			1																			1		
	モンキアゲハ	4				2		2														1			2	1
シロチョウ類	モンシロチョウ（春-初夏）	13			1	1	10	1											1	1	1	6	1	3		
	キタキチョウ（秋）	13			1									1	1	1	4	5	4	1	1	1	2	4		
シジミチョウ類	ヤマトシジミ（通年）	67		2		5	2	2	1	3		5	9	12	10	10	3	3	26	16	3	9	9	4		
	ベニシジミ	3	2	1																1		1		1		
	ウラナミシジミ（秋）	10											1	7	2				10							
	ウラギンシジミ（秋）	23									1		1	3	8	8	1	1	1	3	2	3	3	9	2	
	ムラサキシジミ	2															1	1	1					1		
タテハチョウ類	ツマグロヒョウモン（通年）	6				1		1	1				1		2				1	5						
	テングチョウ（春）	2		1			1																2			
	ルリタテハ	1									1											1				
	アサギマダラ（秋）	—＊																								
セセリ類	イチモンジセセリ（秋）	2					1						1									1		1		

■ 森林性 ／ ■ 草原性　　＊観察日以外に、確認あり。

チョウは、気温が低くても、高すぎても飛びません。
通常、気温が20℃を超えたあたり（GW前後）から活動が活発になり、猛暑の夏には息をひそめ、秋の彼岸過ぎに再びピークを迎えます。

気候のリズムの乱れは、チョウにも影響を与えます。
この３年間をみると、夏の猛暑は共通していますが、梅雨明けの早い年、遅い年、少雨の８月、長雨の９月など、年によって大きな違いが見られます。

＜2018の天候＞

- 早い梅雨明け… ７月９日
- 猛暑（７月後半～８月前半）。
  35℃以上： ７月後半 14日
  ８月前半 13日
  同　後半　７日
- 長雨（９月） 降雨日： 17日。

＜2019の天候＞

- 遅い梅雨明け… ７月28日（平年の７日遅れ）
- 猛暑（８月前半）。
  35℃以上： ８月前半 13日
  同　後半　８日

＜2020の天候＞

- 非常に遅い梅雨明け…　８月１日（平年の11日遅れ）
- 猛暑（盆過ぎ）… 35℃以上： ８月前半７日 ／ 同 後半 15日
  少雨（８月）… 降雨日　：　１日のみ
- 残暑（９月）… 30℃以上： ９月前半 10日 ／ 同 後半４日
- 小春日続き（11月中旬）… 20℃以上： 中旬８日

＊ 夏も秋も、半月ほど後ろにズレ込んだ感じ。
　→ 秋のチョウの出遅れ（蜜源のハギが散った後に秋のチョウが出現するなどのミスマッチも…）

白鳥庭園

上段：2020
下段：2018

		年間合計	季節別															地区別								
				5.2 晴 18℃	17 晴 27	6.7 晴 29	21 曇 27	7.5 曇 25	19 曇 29		8.2 曇 30	16 晴 34		9.6 曇 31	20 曇 21	10.4 曇 24	18 曇 17	11.1 晴 17	15 晴 17	梅林	渓流	池の西岸	池の北岸	北門	池の東岸	清羽亭	芝生広場	導入路
				4.1 晴 16℃	29 晴 24	5.20 晴 19	6.3 晴 28	17 曇 25	7.1 晴 31	15 晴 36	29 曇 32	8.12 曇 36	18 晴 32	26 晴 34	9.9 曇 26	23 晴 23	10.7 晴 27	21 晴 20	11	18 晴 17									
種数		17		5	7	8	7	6	10		5	5		8	5	6	6	8	6	8	6	9	9	5	6	10	8	6
		18	6	6	6	3	4	6	4	2	3	4	5	3	7	6	8		4	8	7	12	8	6	11		11	10
個体数		281	—	35	40	13	15	10	28	—	16	8	—	13	17	17	19	25	25	47	17	82	23	13	19	25	28	27
		232	10	30	14	5	9	27	13	3	3	8	11	6	17	43	26	—	7	40	8	54	24	27	24	—	30	25
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ（通年）	118		19	30	2	6	6	17		9	5		4	10	10				21	7	24	7	8	12	5	12	15
		54		13	3		3	14	7	2	1	1	3	4		1	1	1		6	2	14	4	14	5		4	5
	ナミアゲハ（通年）	23		4	4	1	1		3		1	1		2	3	3				1	3	6	3		2		1	4
		25	2	4	4		3	3	3			2	2		1	1				8	1	2	3	2	1		4	4
	クロアゲハ	—																										
		5		4									1									1	1	2				1
	ナガサキアゲハ	2			1			1																			1	1
		14		6	1			4	1					1	1					4	1	1			4		1	3
	キアゲハ	1							1																	1		
		—																										
シロチョウ科	モンシロチョウ（春-初夏）	14		2	2	5	3	1	1												1	2	3	2	2	2	2	
		7	3		1	2	1													1		2		1			1	1
	モンキチョウ（春）	1				1														1								
		1	1																	1								
	キタキチョウ（秋）	25							1					1		1	1	8	13	1	3	9	1			5	4	1
		4	1												1		2				1	2						1
シジミチョウ科	ヤマトシジミ（通年）	56		10	1	1	1	1	1		5	1			1	2	13	10	9	19		31	5	1	1	3	1	4
		76	2	2		2	2	3	2	1	1	4	4	1	7	27	14		4	18	1	24	8	5	5		5	10
	ツバメシジミ	5				1	1		1					2						1	2		1		1	2		
		—																										
	ウラナミシジミ（秋）	3															2	1				3	1					
		6															5		1	1		2		1			1	2
	ウラギンシジミ（秋）	3																2	1		1	1		1				
		11													4	4	2		1		1	1	2	3	1			3
	ルリシジミ	—																										
		2						2																	2			
	ムラサキシジミ	2										1						1							1	1		
		3	1								1		1								1				1		1	
タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン（通年）	17			2	2	3		3					2			2	2	1	2		5				2	6	2
		8		1	1			1									4		1	1		1			1		2	3
	ヒメアカタテハ	1									1											1						
		—																										
	ヒメウラナミジャノメ	1												1									1					
		—																										
	テングチョウ	—																										
		6			4	1									1					1		3					1	1
	ゴマダラチョウ	—＊																										
		1										1													1			
	アサギマダラ（秋）	1															1			1								
		1															1					1						
セリチョウ科	イチモンジセセリ（秋）	8						1						1	3	1		1	1				1	1		4	1	
		7													2	5							4		1		1	1
	チャバネセセリ（秋）	—																										
		1															1						1					

■ 森林性 ／ ■ 草原性　＊観察日以外に、確認あり。

2018年と2020年を比較した増減理由は、天候の影響が考えられるものの、個々の調査日の天気の違いによる影響も大きく、明確ではありません。

＜種数 2018→2020＞

森林性：11種 → 7種

減　クロアゲハ、ルリシジミ
　　テングチョウ、ゴマダラチョウ

草原性：7種 → 10種

増　キアゲハ、ツバメシジミ
　　ヒメアカタテハ
　　ヒメウラナミジャノメ

減　チャバネセセリ

＊出現頻度の低い種での増減なので誤差の範囲か？

＜個体数 2018→2020＞

森林性：8頭/回 → 12頭/回

増　アオスジアゲハ（なぜか倍増）
　　キタキチョウ（暖かい11月）

減　ナガサキアゲハ
　　ウラギンシジミ（秋の遅れ）
　　テングチョウ

草原性：7頭/回 → 8頭/回

増　モンシロチョウ
　　ツマグロヒョウモン

減　ヤマトシジミ

白鳥庭園・徳川園 の 野鳥

（観察記録は P. 45-46 参照）

樹上で採食する留鳥・漂鳥

樹上に巣をつくり、
樹上で虫や果実を食べる鳥たち。

S 白鳥庭園にいる
T 徳川園にいる

種名 ほぼ毎年見かける
種名 飛来実績あり

i 昆虫食 ／ c 肉食･魚食 ／o 雑食
f 果実食 ／ s 種子食

繁殖期には虫を食べ、
越冬期には果実や種子を食べる鳥が
多いようです。

S⁻級 ： スズメより小さい
S 級 ： ほぼ スズメ大
S⁺級 ： ほぼ スズメ大 ＋ 長い尾
M 級 ： ほぼ ムクドリ大
H 級 ： ほぼ ハト大
K 級 ： ほぼ カラス大
K⁺級 ： カラスより大きい

ヒヨドリ （留鳥、if） M 級
センリョウ、マンリョウ、クロガネモチ、ヒサカキ、クス、センダン…、いろんな実を食べて種子をまき散らします。
梅や桜などの花蜜も好き。
繁殖期には虫を食べます。

メジロ （留鳥、if） S⁻級
花蜜や果汁が好物。
（秋は柿、冬はサザンカ、春は梅・桜、…）
白鳥庭園や徳川園では、冬にやってきます。

コゲラ （留鳥、i ）S 級
一番小さなキツツキ。

シジュウカラ （留鳥、is）
S 級　マツなどにつく虫を食べます。春～夏にツーピー、ツツピとさえずります。
胸の黒いネクタイが目印。

ヤマガラ （留鳥、is）S 級

ヒガラ （漂鳥、is）S 級

シジュウカラとよく似ていますが、
ヤマガラは茶色いおなか、
ヒガラは白いおなか（ネクタイ無し）が目印。

ウグイス （漂鳥、i ） S 級
夏は山地で過ごし、冬は市街地へ出稼ぎする漂鳥。
冬場は、ヤブの中で虫を食べています。

イカル （漂鳥、is） M 級
夏は山地で過ごし、冬は市街地へ出稼ぎする漂鳥。
冬場はエノキ、ムク、カエデなどの木の実を食べます。

樹上や上空から獲物をねらう 留鳥

モズ♂（留鳥、i）S⁺級
枝の上から
何を狙っているのでしょう。
黒いサングラスがイケてます。

オオタカ（留鳥、C）K 級　　上：幼鳥（白鳥庭園）／下：成鳥（熱田神宮）

主にハト、ムクドリなど鳥類をねらう（ネズミ、ウサギ等を狩ることも）。
2020 年 12 月、白鳥庭園の池を突然訪れ、水浴び（上の写真）。
どうやら、熱田神宮（東 500m）に定着しているようです。
求愛（1 月）、巣作り（3月）、産卵（4-5 月）、孵化（5-6 月）、巣立ち（6-7 月）、独立（8 月）、分散・越冬（9-1 月）というのがオオタカの1年。
巣作り～ヒナの独立までの時期は敏感で、人が近づいたりすると繁殖を中断したり営巣を放棄してしまうそうです。静かに見守りましょう。

上空で採食する 夏鳥

ツバメ（夏鳥、i）S 級
上空から舞い降りて、子ツバメにエサを与えています。

渡りの途中（春/秋）で 一時立ち寄る夏鳥・旅鳥

キビタキ♂（夏鳥、i）S 級
市内東部丘陵に飛来する夏鳥。
飛翔中の虫をフライングキャッチ。

オオルリ♂（夏鳥、i）S 級
美声、渓流好き。
飛翔中の虫をフライングキャッチ。

サンコウチョウ♀（夏鳥、i）
ひらひら舞いながら
虫をフライングキャッチ。
S⁺級

サメビタキ（旅鳥、i）S 級

コサメビタキ（旅鳥、i）S⁻級

アイリングが可愛い。
飛翔中の虫をフライングキャッチ。

運が良いと
出会える
鳥たちです。

センダイムシクイ（旅鳥、i）
葉裏の虫を食べます。S⁻級

オオムシクイ（旅鳥、i）S⁻級
枝を渡りながら虫を食べます。

写真：
飯田康博、
オオタカは
安藤健吉

街でもおなじみの鳥の多くは、
樹木や人工物など高い所を
営巣・休息・避難に利用し、
主に地上で採食します。
樹上と地上を行ったり来たり。

地上で採食する 留鳥

S　白鳥庭園にいる
T　徳川園にいる

種名　ほぼ毎年見かける
種名　飛来実績あり

i　昆虫食 ／ c　肉食･魚食
o　雑食
f　果実食 ／ s　種子食

繁殖期には虫を食べ、
越冬期には果実や種子を食べる鳥が
多いようです。

ムクドリ（留鳥、if）L24cm
主に地面で虫を食べますが、
木の実も食べます。

カワラヒワ（留鳥、is）S 級
地面をはね歩いて草の種子を
食べます。

スズメ（留鳥、is）L14.5cm
青虫を捕食／水飲み中／砂浴び。

ハクセキレイ（留鳥、i）／ **セグロセキレイ**（留鳥、i）／ **キセキレイ**（漂鳥、i）S⁺級
水辺近くの地面で虫を食べます。 池畔でちょこちょこと歩く姿を見かけます。

キジバト（留鳥、s）／ **ドバト**（留鳥、s）L33cm

ハシボソガラス（留鳥、o）L50cm
水道の蛇口をつついて…

ハシブトガラス（留鳥、o）
L57cm

地上で採食する 冬鳥

（観察記録は P. 45-46 参照）

ツグミ（冬鳥、if）M 級
地中の虫や果実を食べます。

シロハラ♂（冬鳥、if）M 級
落ち葉下の虫や果実を食べます。

ジョウビタキ♀・♂（冬鳥、if）S 級
枝先から舞い降り地面の虫を食べますが、
木の実も食べます。

ルリビタキ♂（冬鳥、if）S 級
地面の虫や果実を食べます。

上にはカラス、下にはノネコ …
平和そうに見える庭園の中も、
実は危険でいっぱいです。

地面好きの鳥への脅威です。

アオジ♀・♂（冬鳥、is）S 級
茂みの足元で、虫や草木の種子を食べます。
ノネコ増加の影響か、最近はあまり姿を見せ
ません。

シメ（冬鳥、s）S 級
地面で種子を食べるほか、
木の実も食べます。

白鳥庭園では、最近タヌキも棲み始めました。
以前、アライグマやハクビシンがやって来たことがありましたが、
この時は数か月でいなくなったそうです。
今回は、どうなるのでしょうか？
野生動物は、感染症を運んだりもします。
野生動物との距離を、どうとれば良いのでしょうか？

S⁻級 ： スズメより小さい
S 級 ： ほぼ スズメ大
S⁺級 ： ほぼ スズメ大 ＋ 長い尾
M 級 ： ほぼ ムクドリ大
H 級 ： ほぼ ハト大
K 級 ： ほぼ カラス大
K⁺級 ： カラスより大きい

写真：飯田康博、加藤正嗣

水 辺 の 鳥（留鳥）

（観察記録は P. 45-46 参照）

カワセミ S 級

アオサギ K⁺級

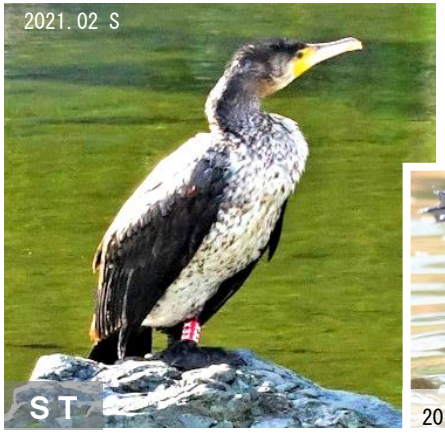
飛び立つ姿は雄大。
羽： 青みがかった灰色
嘴・脚： 黄（繁殖期にはピンク）

コサギ K 級 ／ **ダイサギ** K⁺級

嘴：	黒	嘴：	黄（繁殖期には黒）
脚：	黒	脚：	黒
足指：	黄		

ゴイサギ K 級

成鳥（上）
幼鳥（下）
夜行性。



カワウ K⁺級

堀川上空は、カワウの出勤・帰宅飛行の幹線ルート。
編隊が午前は北上、午後は南下します。
2021.02、左足に赤いリングをつけたカワウが、白鳥庭園に飛来。2020.06 に北海道湧別川コロニーで放されたものらしい。 http://kitakawauken.jugem.jp/?cid=1

カルガモ K 級 雌雄同色。嘴の先端が黄色い。

S 白鳥庭園にいる		T 徳川園にいる	
種名	ほぼ毎年見かける	**茶字**	肉食系
種名	飛来実績あり	**緑字**	草食系

（夏鳥）

ササゴイ K 級

成鳥（上）／ 幼鳥（下）

水 辺 の 鳥（冬鳥）

H 級 ： ほぼ ハト大
K 級 ： ほぼ カラス大
K⁺級 ： カラスより大きい

ユリカモメ　H 級

群れで飛び回ったり泳いだり、橋の上で休息したり、
外周のクスノキをつつきに出かけたり…。
忙しい鳥です。
この日は、氷の上に並んでいました。

マガモ ♀♂（淡水ガモ）K 級

冬鳥ですが、徳川園では留鳥化しています。
（2018 には、左の写真のように繁殖）

冬には、マガモの群に混じって他のカモ類もやってくることがあります。
（右上写真の右端＝オナガガモ）

オナガガモ（淡水ガモ）K 級

キンクロハジロ♀♂（潜水ガモ）
K 級

ホシハジロ ♂♀（潜水ガモ）
K 級

コガモ♂（淡水ガモ）
H 級

ハシビロガモ ♀（淡水ガモ）
K 級

ヒドリガモ ♀♂（淡水ガモ）
K 級

冬の白鳥庭園周辺（北隣の大夫堀、東隣の堀川）には、多様なカモ類が泳いでいます。
時折、白鳥庭園にも出張して来ます。

写真：飯田康博、安藤健吉、早川雅美、加藤正嗣

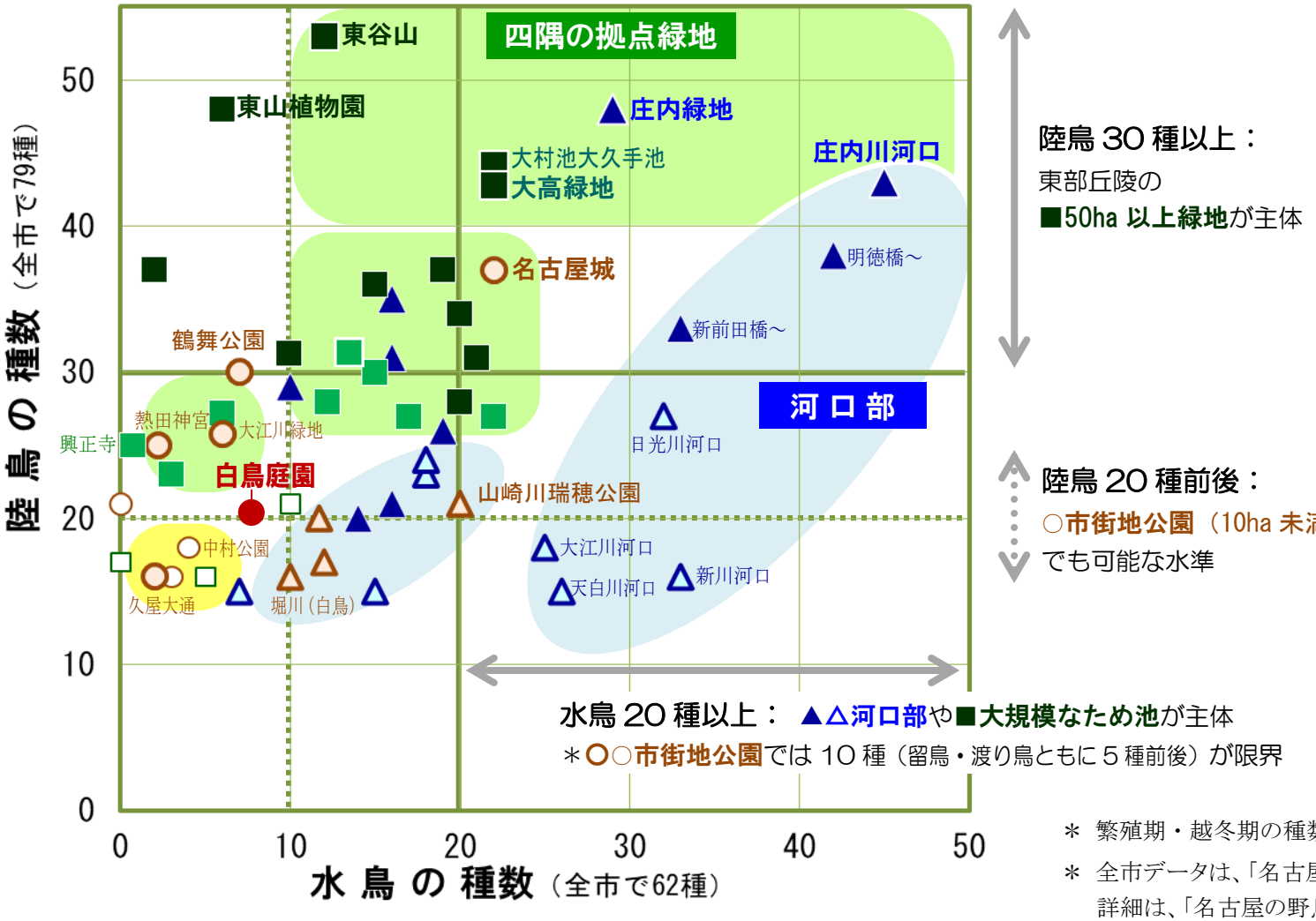
【コラム】　名古屋の野鳥（陸鳥 vs 水鳥）

陸 鳥 の種数が多いのは … **四　隅**（北東＝東谷山・大村池大久手池／北西＝庄内緑地／南西＝庄内川河口／南東＝大高緑地）＋ **東山**。

水 鳥 の種数が多いのは … **河口部**　うち庄内川河口は、陸鳥も多様（草地好き･ヨシ原好きの鳥や猛禽類などが多い）。

白鳥庭園は、小粒（敷地 3.7ha、うち池 0.6ha）ながらも健闘。

陸鳥： 毎年 20～21 種（瑞穂公園なみ水準）／ 水鳥： 毎年８～10 種（鶴舞公園をやや上回る水準）。　＊P. 45-46 参照



陸鳥 30 種以上：
東部丘陵の
■50ha 以上緑地が主体

陸鳥 20 種前後：
○市街地公園（10ha 未満）
でも可能な水準

水鳥 20 種以上： ▲△河口部や■大規模なため池が主体
＊○○市街地公園では 10 種（留鳥・渡り鳥ともに５種前後）が限界

■ 丘陵地の緑地（50ha 以上）
■ 同（10ha 以上）
□ 同（10ha 未満）

▲ 庄内川
△ その他の大規模河川
△ 市街地の中小河川

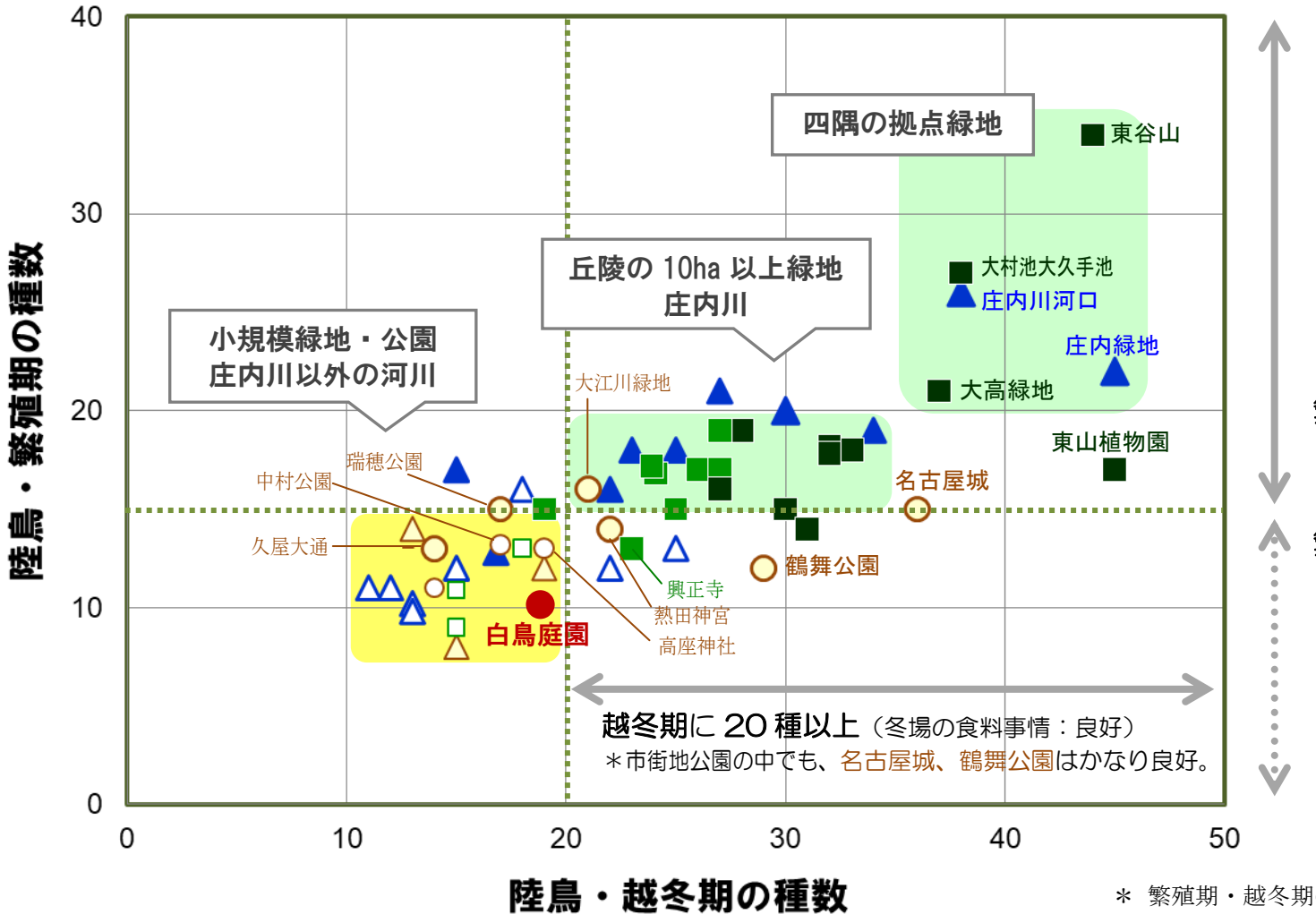
○ 市街地の公園･神社（10ha 以上）
○ 同（10ha 未満）

＊ 繁殖期・越冬期の種数（渡り期の一時立寄りは含まない）。

＊ 全市データは、「名古屋の野鳥 2014（名古屋市緑政土木局）」による。
詳細は、「名古屋の野鳥マップ改訂版（モノサシなごや）」を参照。
http://blog.goo.ne.jp/monosashi758 の【17-1027】号。

【コラム】　名古屋の陸鳥（繁殖期 vs 越冬期）

名古屋の**四隅**（北東=東谷山・大村池大久手池／ 北西=庄内緑地／ 南西=庄内川河口／ 南東=大高緑地）は、繁殖期・越冬期ともに種数が多い。
これに準ずるのが、**■東山植物園**と**○名古屋城**（繁殖期はそこそこだが、越冬期には四隅なみ=35 種以上）。
■■東部丘陵の主要緑地、▲庄内川河川敷がこれに続く（繁殖期 15～20 種、越冬期 20～35 種）。
白鳥庭園は、繁殖環境はイマイチだが、越冬環境は市街地としてはマアマア。



■ 丘陵地の緑地（50ha 以上）
■ 同（10ha 以上）
□ 同（10ha 未満）

▲ 庄内川
△ その他の大規模河川
△ 市街地の中小河川

○ 市街地の公園･神社（10ha 以上）
○ 同（10h 未満）

繁殖期に 15 種以上（子育て環境：良好）
■■ 東部丘陵の 10ha 以上緑地
▲ 庄内川

繁殖期に 15 種以下（子育て環境：難あり）
□ 10ha 未満緑地
△△ 庄内川以外の河川
○○ 市街地公園

＊ 繁殖期・越冬期の種数（渡り期の一時立寄りは含まない）。
＊ 全市データは、「名古屋の野鳥 2014（名古屋市緑政土木局）」による。
詳細は、「名古屋の野鳥マップ改訂版（モノサシなごや）」を参照。
http://blog.goo.ne.jp/monosashi758 の【17－1027】号。

【コラム】　野鳥観察（白鳥庭園・徳川園）

陸　鳥

白鳥庭園	年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	18	19	20	年度	徳川園	
	種数	16	19	17	18	20	21	19	20	20	21	20	20	21	8	11	15	種数		
	小計	11	13	11	15	13	13	14	15	14	16	16	15	17	7	10	11	小計		
留鳥・漂鳥	□ スズメ	●	◎	●	●	●	●	◎	◎	●	○	●	●	●	◎	◎	◎	□ スズメ	留鳥・漂鳥	
	□ ムクドリ		●	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	●	●	●	●	◎	◎	□ ムクドリ		
	□ ハクセキレイ	○	○	*	○	◎	○	○	●	●	●	●	●	●	◎	●	◎	□ ハクセキレイ		
	□ セグロセキレイ	○	●	○	○	●	●	●	●	◎	●	●	●	●			*	□ セグロセキレイ		
	□ キセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				□ キセキレイ		
	□ ドバト	◎	○	*	●	*	△	△	△	●	○	●	●	●	◎	●	●	□ ドバト		
	□ ヒバリほか																	□ ヒバリほか		
	• キジバト		○	*	●	*	△	△	△	●	○	●	○	○	○	○	△	• キジバト		
	• ハシボソガラス		○	◎	○	○	△	△	△	●	●	●	●	●		◎	△	• ハシボソガラス		
	• ハシブトガラス	*			○	○	●	△	◎	○	○	○	●	△		○	◎	• ハシブトガラス		
	• カワラヒワ	*	◎	◎	○	◎					*	◎	*	○				• カワラヒワ		
	• ヒヨドリ	◎	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	• ヒヨドリ		
	• ウグイス				*		*	△	△	○	△	○	○	○				• ウグイス		
	• モズ	○	○	○	○	*			*	*	○	○	○	*			*	• モズ		
	• オオタカ									*				○				• オオタカ		
	• ホオジロほか																	• ホオジロほか		
	■ メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*	○	○	■ メジロ		
	■ シジュウカラ	○	◎	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	*	◎	■ シジュウカラ		
	■ コゲラ	○	*		◎	○	●	●	●	*	○	○	○	●		◎		■ コゲラ		
	■ ヤマガラ			○		○								○				■ ヤマガラ		
	■ ヒガラ					○	◎							*				■ ヒガラ		
	■ エナガ								○	○								■ エナガ		
	■ イカル	○		*							○						○	■ イカル		
	■ アカゲラほか																	■ アカゲラほか		

白鳥庭園	年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	18	19	20	年度	徳川園	
	種数小計	5	6	6	3	7	8	5	5	6	5	4	5	4	1	1	4	種数小計		
夏鳥	□ ツバメ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎	△	◎	□ ツバメ	夏鳥	
	□ オオヨシキリほか																	□ オオヨシキリほか		
	• アオバズク													*				• アオバズク		
	• ヨタカ																	• ヨタカ		
	■ キビタキ				*				*		*	*		*	*	*		■ キビタキ		
	■ オオルリ	*			*		*	*			*							■ オオルリ		
	■ サンコウチョウ																*	■ サンコウチョウ		
	■ ホトトギスほか																	■ ホトトギスほか		
冬鳥	□ ツグミ	○	○	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○				□ ツグミ	冬鳥	
	□ オオジュリンなど																	□ オオジュリンなど		
	• シロハラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		*	○	• シロハラ		
	• ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			*	• ジョウビタキ		
	• シ メ		○	○		○	○		○				○				○	• シ メ		
	• アオジ	○	○	○		○	○	○		○	△		*					• アオジ		
	• アトリ				*						*							• アトリ		
	• カシラダカほか																	• カシラダカほか		
	■ ルリビタキ						○			○							○	■ ルリビタキ		
	■ キレンジャク				*													■ キレンジャク		
	■ ヒレンジャク				*													■ ヒレンジャク		
	■ コイカルほか																	■ コイカルほか		
旅鳥	■ サメビタキ						*					*					*	■ サメビタキ	旅鳥	
	■ コサメビタキ													*			*	■ コサメビタキ		
	■ センダイムシクイ										*							■ センダイムシクイ		
	■ オオムシクイ													*				■ オオムシクイ		
	□ ノゴマ					*												□ ノゴマ		
	カッコウほか																	カッコウほか		

・2008～20 年度の撮影記録（by 飯田康博）をもとに作成した。

・定着（ほぼ毎年確認）／実績あり（繁殖期・越冬期に確認）／
　通過実績あり（渡り期など）／*確認実績なし*　に４区分した。

・詳細は、次ページ右下を参照。

＜白鳥庭園＞

地上採食： スズメ、ハト、カラス、ムクドリ、セキレイ類、カワラヒワが定着。
樹上等採食： ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、コゲラ、ウグイス、モズが定着。

ツバメが定着。　キビタキ、オオルリなどが、渡りの途上で一時立寄り。

ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、シメが定着。　アオジは最近あまり姿をみない。

サギ類（アオサギ、コサギ、ゴイサギ）のほか、　カルガモ、カワウ、カワセミが定着。

ササゴイが、しばしば飛来。

ユリカモメが定着。　近隣の大夫堀・堀川から、いくつかのカモ類が時折飛来。

＜徳 川 園＞

陸　鳥	**地上採食：** スズメ、ハト、カラス、ムクドリ、ハクセキレイが定着。
留鳥・漂鳥	**樹上等採食：** ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラが定着。
夏鳥・旅鳥	ツバメが定着。　キビタキ、サンコウチョウなどが、渡りの途上で一時立寄り。
冬鳥	シロハラが定着。　シメ、ルリビタキなども時折飛来。
水鳥　留鳥	カルガモ、カワセミが定着。
夏鳥	
冬鳥	マガモが定着（留鳥化）。　マガモに混じって、他のカモ類が時折飛来。

水　鳥

白鳥庭園	年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	18	19	20	年度	徳川園	
	種数	5	5	7	8	6	6	7	8	8	10	8	8	8	1	5	3	種数		
留鳥	カルガモ	●	●	●	●	●	●	◎	●	●	●	●	●	●	*	◎	*		カルガモ	留鳥
	カワウ	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	*	◎	◎		○			カワウ	
	カワセミ	○	○	●	*	○	●	○	○	●	●	●	○	○		○	○		カワセミ	
	アオサギ		*		○	*	○	●		●	◎	◎	◎	○					アオサギ	
	ダイサギ	*					*	*	○			*							ダイサギ	
	コサギ	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	○	●	○					コサギ	
	ゴイサギ			○						*	○	◎		◎					ゴイサギ	
	カイツブリほか																		カイツブリほか	
夏鳥	ササゴイ		*		◎		*		◎	◎	*	*	◎				*		ササゴイ	夏鳥
	コアジサシほか																		コアジサシほか	
冬鳥	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					ユリカモメ	冬鳥
	マガモ	*		○	○	○					*		◎		●	○	○		マガモ	
	コガモ	*	*								○								コガモ	
	キンクロハジロ				○			*		○				○					キンクロハジロ	
	ホシハジロ							○	○		○	○							ホシハジロ	
	ハシビロガモ										○	○							ハシビロガモ	
	ヒドリガモ										*						○		ヒドリガモ	
	オナガガモ															○			オナガガモ	
	オオバンほか																		オオバンほか	
旅鳥	チュウシャクシギほか																		チュウシャクシギほか	旅鳥

【注】2008～2020年度 の 撮影＝確認記録（by 飯田康博）

種数　：　**繁殖期 or 越冬期に確認されたもの**（渡り期等は算入せず）

赤字　：　**定着**しているもの
青字　：　**実績あり**（繁殖期・越冬期）
黒字　：　**通過実績あり**（渡り期などに一時立寄り）
灰字　：　**確認なし**（市内の他地区では確認のあるもの）

●　**繁殖期・越冬期ともに**撮影記録あり
◎　**繁殖期の**撮影記録あり（繁殖期＝5-7月、ただし夏鳥は6-7月）
○　**越冬期の**撮影記録あり（越冬期＝12-2月とした）
＊　その他の時期（**渡り期等**）に撮影記録あり
△　撮影していないが、繁殖期 or 越冬期の確認あり

□　**開けた場所好き**（草地、農耕地、水辺など）
・　**中間的**
■　**樹林好き**

【改善・提案】 白鳥庭園 2017−20

2010 年の生物多様性条約 COP10 の開催（於：白鳥庭園北側の名古屋国際会議場）を契機に、
白鳥庭園では**無農薬管理への挑戦**が始まり、今も続いています。

ex. 春〜秋： 毛虫は、割りばしでつまんで捕殺。
冬： 越冬繭や卵は、竹べらで削り取る。

2017 年以降は、**私たち**（都市の自然のモノサシ研究会）**の提案を踏まえた取り組み**も始まりました。

芝生広場

●食草・蜜源の補植　△選択制の除草（自生の食草・蜜源の温存＝刈り残し）

2017	2018	2019	2020
秋の七草ゾーンづくり			
●カワラナデシコ ＊各種チョウ蜜源		● 同左	● 同左
●オミナエシ ＊各種チョウ蜜源		● 同左	● 同左
●フジバカマ ＊アサギマダラ、ツマグロヒョウモン蜜源		● 同左	● 同左
●ヒヨドリバナ ＊アサギマダラ、ツマグロヒョウモン蜜源			●キキョウ
●ススキ ＊イチモンジセセリ食草			
			芝生広場西端（園路際）
			●スミレ ＊ツマグロヒョウモン食草

◇**秋の七草ゾーン：** 芝生広場の水辺寄りに、チョウの蜜源確保を兼ねた「秋の七草ゾーン」を企画。
2017 に植付 → しかし翌年の生育は悪く（猛暑の影響？）、チョウの飛来も期待外れ。
その後も補植 → オミナエシは育ったものの、チョウの誘因にはボリューム不足。
フジバカマは生育不良（少雨の影響？ 清羽亭などでは生育良好なのに…）。
→→ 条件の良い場所への**移植**、および**株数の増加**（群にして花を繁茂させる）などを要検討。

◇**園路際**（広場西端）： スミレを植栽（2020）→ ツマグロヒョウモンの飛来が増えた。

食痕のあるスミレ

現地看板

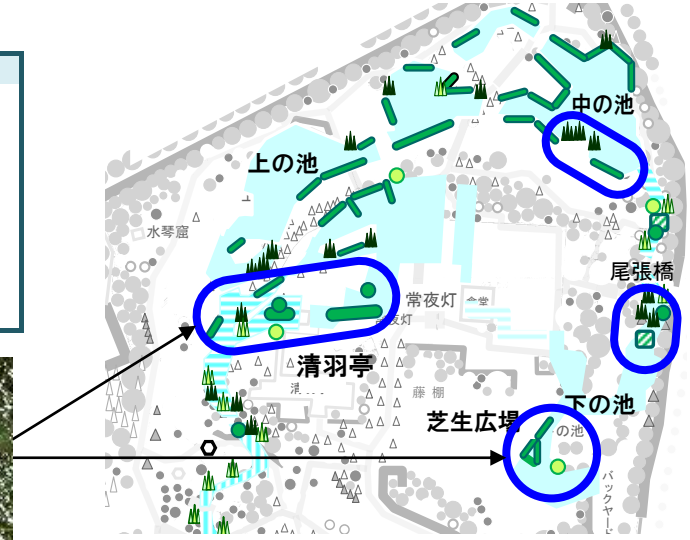
ナデシコ 2020. 07

オミナエシ 2020. 09

枯れたフジバカマ 2020. 09

池

2017	2018	2019	2020
清羽亭周辺 ＆ 下の池			
ヤゴに配慮した池の清掃	同左	同左	同左
中の池			
コイ除け柵の設置	コイ除けの高さ調整		
下の池			
ヨシ帯づくり（プランター）	観察スポット整備		



◇ヤゴに配慮した池の清掃方法への改善

池底の清掃で出た藻類をすぐに処分せず、水際に１～２日放置し、ヤゴが池に戻れるようにした（2017 年度～）。

すくい上げた藻類に潜むヤゴ

◇コイ除け柵の設置（中の池）

2017 年度、中の池の南岸にコイ除けの竹しがらみを設置。

→ トンボの産卵は確認されたが、ヤゴの増加は確認できなかった。

＊ ただし、オタマジャクシは鈴なりだった。

→ 池の増水時にコイの侵入（柵越え）が見られたので、高さ調整。

＊ しかし、下の池や清羽亭西などに比べると水生植物の生育が少ないため、トンボ発生源としての機能の低さは否めない。

→→ コイ除け柵の内側に、**浮葉植物（トチカガミなど）の補植**を検討し、トンボの産卵環境改善を図る必要あり。

コイ除け柵

オタマジャクシが鈴なり

ヨシプランターの設置

◇ヨシ帯づくり（下の池北東部）

下の池北東部（尾張橋南）は、ヤゴの生育場所。

2017 年度、ヨシを植えたプランター設置 → ヤゴの生息環境改善。

◇観察スポットづくり（下の池北東部）

2018 年度、ヤゴの生息場所やトンボの行動を観察できるように、水際まで近づけるよう整備。

- 樹木の剪定（下枝、枯枝、支障枝）
- 園路整備（水際への小径、飛び石設置、土留め）
- 流入部の淀み解消（流れの支障となる抽水植物・浮葉植物の整理）

→→ 今後、この場所の**活用方法・管理方法**を要検討。

写真：加藤正嗣、川島大次、飯田康博

清羽亭周辺　　●食草・蜜源の補植

2019	2020
清羽亭南	
●フジバカマ　＊アサギマダラ、ツマグロヒョウモン蜜源	
	●ヒガンバナ
	池端（汲江軒待合前）
	●ホトトギス　＊ルリタテハの食草

◇2017、正門前にフジバカマの鉢植えを設置 → アサギマダラが飛来。
◇2019、清羽亭周辺、築山東にもフジバカマを植栽 → 10月中旬、飛来。
◇2020、ホトトギス、ヒガンバナも植栽。
茶庭のハギ（既存植栽）は 2020 にはよく茂り、ツバメシジミ、イチモンジセセリの吸蜜を確認。

アサギマダラ

梅林奥（里地ゾーン）　　●食草・蜜源の補植

2017	2018	2019	2020
花　壇			
●セイヨウアブラナ播種 ＊モンシロチョウ食草・蜜源	● 同左	● 同左	● 同左 ●ソバ播種 ＊ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、ナミアゲハ、モンシロチョウ蜜源
梅林奥		個体数 No.2	
●イヌザンショウ　＊アゲハ類の食草 ●ナツミカン、ユズ　＊同上 ●サルトリイバラ　＊ルリタテハの食草			●ナツミカン、ハッサク、ダイダイ ＊アゲハ類の食草 ●スミレ　＊ツマグロヒョウモン食草
		築山東	
		●フジバカマ　＊アサギマダラ、ツマグロヒョウモン蜜源	

ダイダイの木

◇花　壇：

2017 の 10 月にセイヨウアブラナ播種。
→ 2018 の 3 月、一斉に開花（蜜源）し、来園者に人気。
→ モンシロチョウの飛来は、期待はずれ。
→ その後も、モンシロチョウの誘致は不発。
＊ 2020 のモンシロチョウ飛来は、
4月はコロナで観察できず。
5～7月は、庭園北半部では比較的良好だったが、
南端の梅林周辺では皆無。
2020 には、夏～秋の蜜源としてソバも播種。
→ なぜか生育不良。
→→ 2021 の**再挑戦**に期待。

セイヨウアブラナ
来園者には好評だったが…

◇梅林奥：

2017、イヌザンショウ、ナツミカン、ユズ（アゲハ類の食草）、サルトリイバラ（ルリタテハの食草）を植栽。
→ 日当りが悪く、発育不良。
（ナツミカン１本、サルトリイバラは枯死）
→ 2020、従来より日当りの良い場所にナツミカン等を追加。
＊ アゲハは若い葉に産卵する。
新芽の出る５月頃に、産卵することを期待。

写真： 加藤正嗣、川島大次

提案： 梅林奥の整備イメージ　～ チョウの舞う里の陽だまり ～

◇ 里の風景をいろどるチョウたちを誘致する。

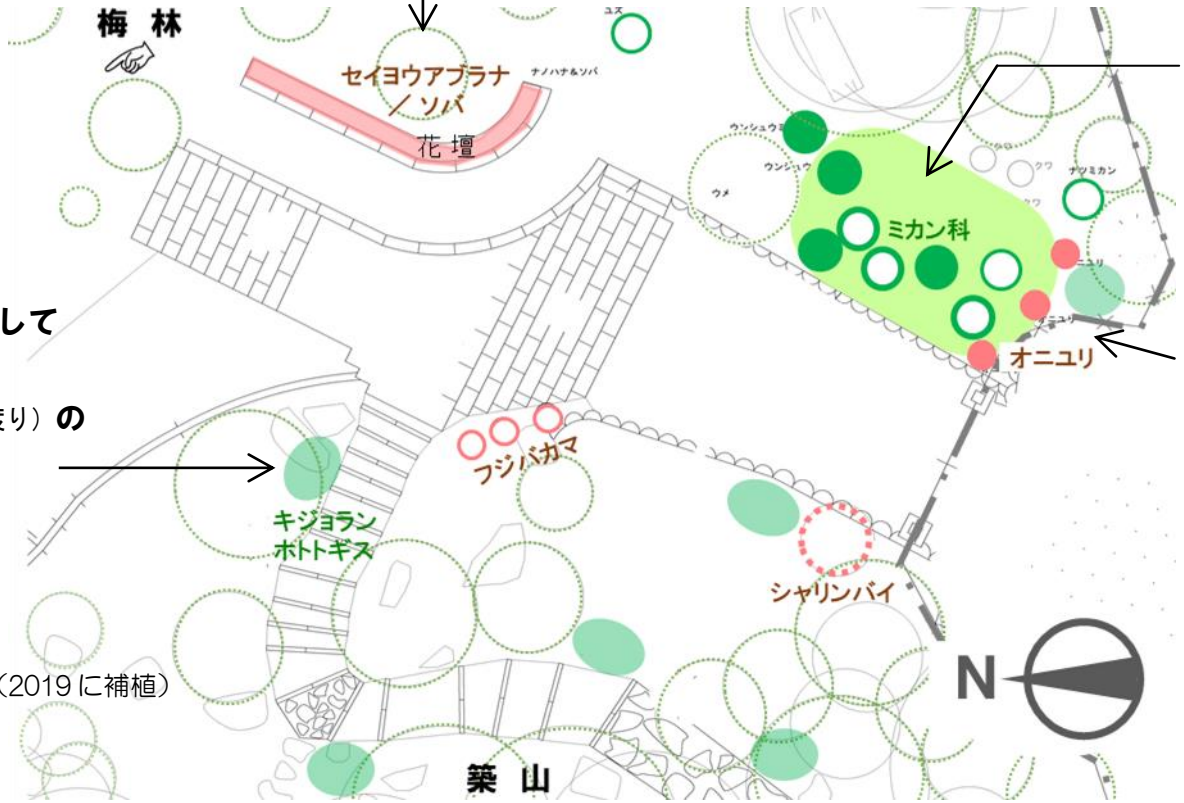
花壇で、畑地系の蜜源を栽培（季節によって２種を入れ替え）

- セイヨウアブラナ： ○モンシロチョウなどの蜜源、食草にも（花期4月、10 月播種→5月撤去）
- ソバ： ●ナミアゲハ、△ヤマトシジミ、◆ツマグロヒョウモンなどの蜜源（花期 9-10 月、6月播種→10 月撤去）

◇ 選択制の除草でおすそ分け…
自生の食草・蜜源を温存。

日照の確保（周囲の高木の枝透かし剪定）。
自生の食草・蜜源の温存（選択制の除草）。
自然任せではなく、景観も考慮して手入れ。

- カタバミ（△ヤマトシジミの食草・蜜源）
- ナズナ（○モンシロチョウの食草）
- シロツメクサ（○モンキチョウの食草・蜜源）
- スミレ（◆ツマグロヒョウモンの食草）
- タンポポ、アザミ（○モンシロチョウ、●ナミアゲハなどの蜜源）



◇ 林縁部の環境を生かして
ルリタテハ（樹林好き）
アサギマダラ（長距離の渡り）の
食草・蜜源を補植。

◆ルリタテハ
　食草： ホトトギス
◆アサギマダラ
　食草： キジョラン
　蜜源： フジバカマ（2019 に補植）

◇ アゲハ類を定着させるための
食草・蜜源を補植。

- 食草： ミカン科をさらに増やす。
　（ハッサク、ウンシュウミカン等）
- 蜜源： オニユリ
　シャリンバイ（既存樹）

● アゲハチョウ科
○ シロチョウ科
△ シジミチョウ科
◆ タテハチョウ科
▲ セセリチョウ科

蜜　源
- セイヨウアブラナ／ソバ（提案:2021～）
- オニユリ（提案:2021～）
- フジバカマ（整備済：2019）
- シャリンバイ（既存樹）

食　草
- ミカン科（提案:2021～）
- ミカン科（整備済：2017／2020）
- キジョラン、ホトトギス（提案:2021～）

選択制の除草
自生の食草・蜜源等の温存

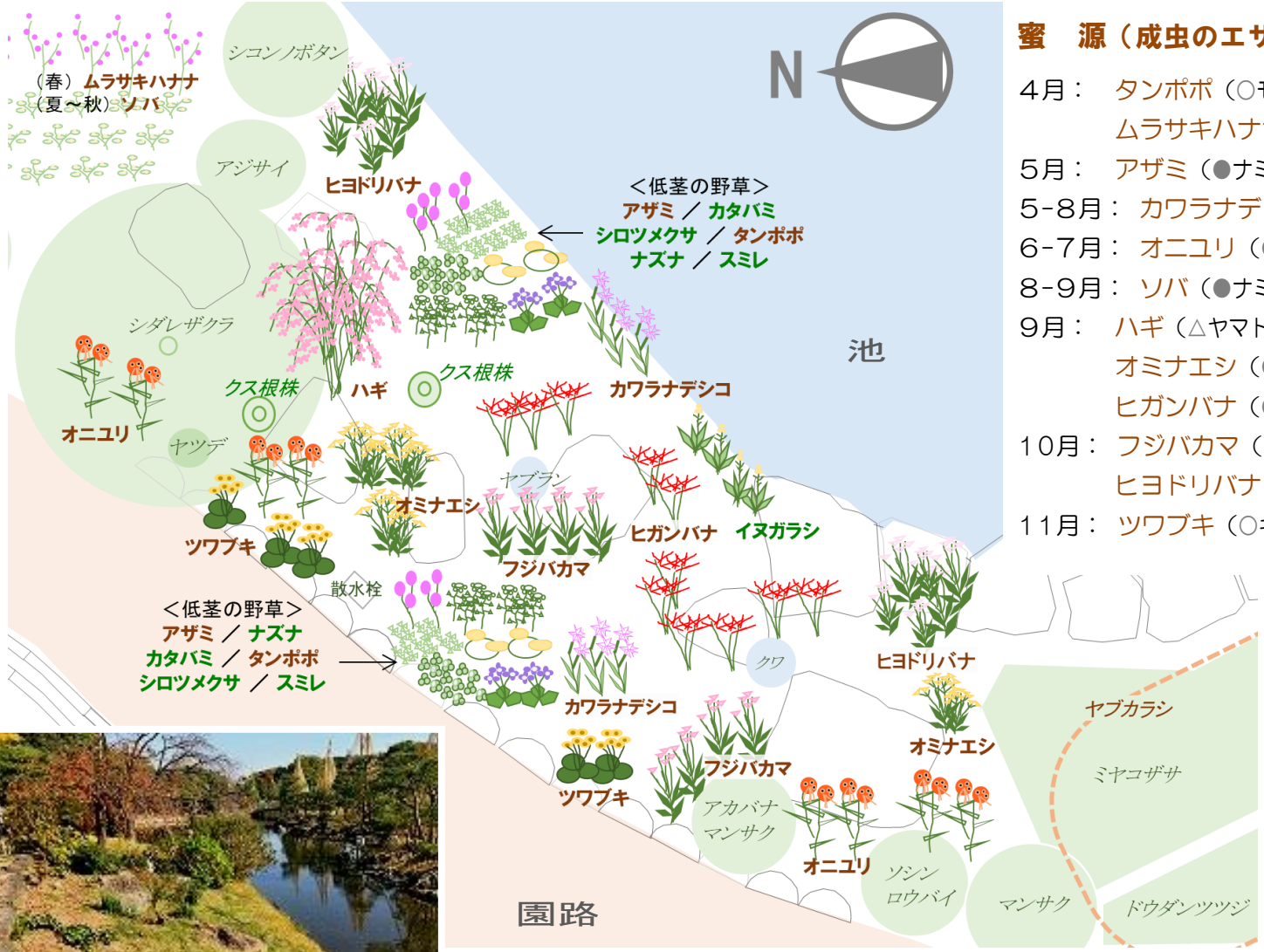
上の池西岸

●食草・蜜源の補植　△選択制の除草（自生の食草・蜜源の容認＝刈り残し）

2017	2018	2019	2020
低木帯			
△ヤブカラシ ＊アゲハ類の夏～秋口の蜜源	△ 同左 個体数 No. 1	△ 同左	△ 同左
			水琴窟前
←――――――

提案： 水琴窟前の整備イメージ　～ 和風ミニ・バタフライガーデン ～

① 春・夏・秋の間、常にチョウの食草や蜜源がある状態をめざす（蜜源のリレーを、春～秋までつなぐ）。
② 日本庭園の草木とのバランスや景観にも考慮しつつ、段階的に試行。



写真： 河崎泰了、飯田康博、加藤正嗣

蜜　源（成虫のエサ）

4月：　タンポポ（○モンシロチョウ、●ナミアゲハなど）
　　ムラサキハナナ（○モンシロチョウ、●ナミアゲハ）
5月：　アザミ（●ナミアゲハ、●クロアゲハ、◆ツマグロヒョウモン）
5-8月：　カワラナデシコ（●ナミアゲハ、○モンシロチョウ）
6-7月：　オニユリ（●クロアゲハ、●モンキアゲハ）
8-9月：　ソバ（●ナミアゲハ、△ヤマトシジミ、◆ツマグロヒョウモン）
9月：　ハギ（△ヤマトシジミ、△ツバメシジミ、△ウラナミシジミ）
　　オミナエシ（●ナミアゲハ、△ヤマトシジミ、◆ツマグロヒョウモン）
　　ヒガンバナ（●ナミアゲハ）
10月：　フジバカマ（△ヤマトシジミ、◆ツマグロヒョウモン、◆アサギマダラ）
　　ヒヨドリバナ（◆ツマグロヒョウモン、◆アサギマダラ）
11月：　ツワブキ（○キタキチョウ、△ヤマトシジミ、◆ツマグロヒョウモン）

食　草（幼虫のエサ）

イヌガラシ：　○モンシロチョウ
ナズナ：　○モンシロチョウ
シロツメクサ：　○モンキチョウ（蜜源にも）
カタバミ：　△ヤマトシジミ（蜜源にも）
スミレ：　◆ツマグロヒョウモン
クス根株（ヒコバエの若芽）：　●アオスジアゲハ
ハ　ギ：　△ウラナミシジミ、△ツバメシジミ（食草・蜜源）、△ヤマトシジミ（蜜源）

● アゲハチョウ科　○ シロチョウ科
△ シジミチョウ科
◆ タテハチョウ科　▲ セセリチョウ科

【提案】 徳川園 2020 ★ 和の食草・蜜源でチョウを呼ぶ

① 自生の食草・蜜源の活用　選択制の除草により、なるべく容認・温存（腹八分目管理）。

☆カタバミ（ヤマトシジミの食草・蜜源）： 山上の芝生広場、花菖蒲園、サツキ等の植込の根元（むしる場合は支障のない所へまとめて移植）

○タンポポ（モンシロチョウなどの蜜源）： 山上の芝生広場、花菖蒲園

② 既存植栽（食草・蜜源）**の育成**

♥ハギ（ウラナミシジミ等の食草・蜜源、ヤマトシジミ等の蜜源）： 西岸、ボタン園西（日なたに、こんもりした群落を）

○ツワブキ（キタキチョウ等の晩秋の蜜源）： 西岸（日当たりのよい場所へ）

☆オニユリ（ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキアゲハの蜜源）： 渓流の中溜り周辺（北側の斜面へも補植）

③ 和の食草・蜜源の補植

蜜源のリレー（季節に応じた和の花）を、春～秋までつなぐ。

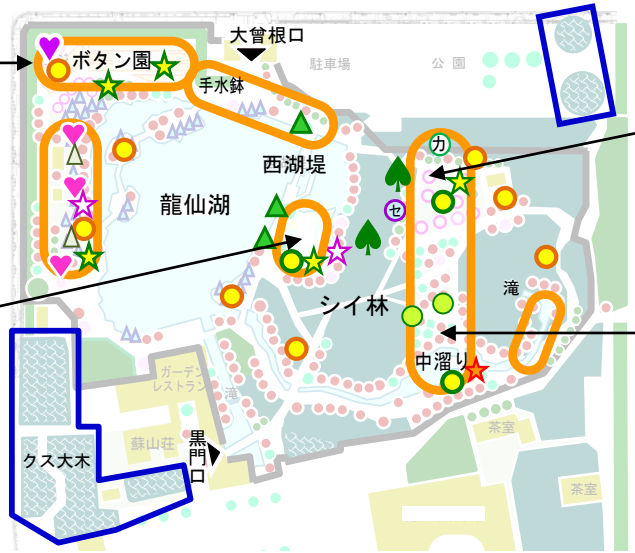
ex.　4月： ヤマツツジ（アゲハ類の蜜源）
5-6月： ノアザミ（アゲハ類、モンシロチョウ）、 クリンソウ（黒いアゲハ類）
シャリンバイ（アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモン）
7-9月： クサギ（黒いアゲハ類）
8-9月： オミナエシ（ナミアゲハ、ツマグロヒョウモンなど）
オトコエシ（ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン、アサギマダラ）
10-11 月： フジバカマ（アサギマダラ、ツマグロヒョウモン）

日本庭園にふさわしい、和の **食 草** の強化。

- ミカン科（ミカン、イヌザンショウ、カラスザンショウなど）
  アゲハ類の食草。少し日陰でも植えておく。
- スミレ類（ツマグロヒョウモンの食草）
- スイバ類（ベニシジミの食草）
  中溜り付近等で散見されるベニシジミを、定着させたい。
- アシタバ（キアゲハの食草）
  中溜り北の斜面に生育。増やせばキアゲハが期待できる。

＜ボタン園周辺＞　***生垣も生かせる～♪***
外周の生垣に、ミカン科（アゲハ類食草）を混植。
藤棚周辺に、スミレ（ツマグロヒョウモン食草）、
フジバカマ（同 蜜源）などを補植。

＜花菖蒲園＞ ***湿生環境を生かせば鬼に金棒 ♫***
菖蒲田、水路、段丘下の流れなど個性的な環境。
自生の食草・蜜源（カタバミ、タンポポ）を生かしたい。
セリ（キアゲハ食草）、ホトトギス（ルリタテハ食草）
を日陰から日なたに移せば、チョウの利用促進。



＜芝生広場＞ ***腹八分目の管理で潜在力発揮♪***
林の中のぽっかり明るい空間。
自生の食草・蜜源（カタバミ、タンポポ）を生かしたい。

＜中溜り周辺＞ ***水辺とワイルドさを生かしたい ♫***
池と南向斜面（草地・疎林）からなる、ややワイルドな空間。野草の補植や自生容認で、潜在力を生かしたい。
高木の枝を払って明るさを増せば、チョウやトンボの生息条件が向上。（滝口付近のチョウの道も同様）

【提案】徳川園 2020　★ 水辺環境の多様性を高め、トンボ相を一層豊かに

徳川園には、トンボが生息するための要素（水辺・水生植物・樹林）が全てそろっています。
現状でも、**都市における安定したトンボ発生地**の機能を十分に果たしていますが、
水辺環境の多様性をさらに高める工夫を計画・実行すれば、**トンボ相を一層豊かにする**ことができます。

花菖蒲園（水路＋隣接する樹林）

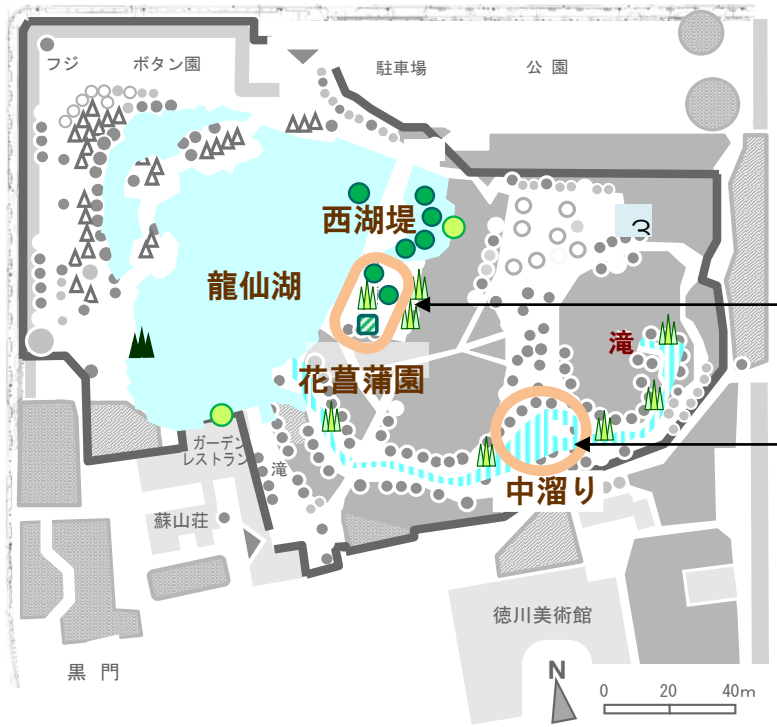
課　題　菖蒲田が乾燥しており、トンボが生息できない。

改善策

・菖蒲田の一角、あるいは西湖堤東の池の水際に、
休耕田のような低茎の湿生草地を造ると、
アカトンボ類が増える。

改善例： 名城公園（御深井池の水際）

改善例： 休耕田湿地



渓流の中溜り（樹林に囲まれた水面）

課　題　水面に浮葉植物など水生植物の生育がみられない。

改善策

・水面に浮葉植物帯・抽水植物帯を造り、
イトトンボ類の産卵環境を創出する。

改善例：鶴舞公園（胡蝶ヶ池）

改善例：白鳥庭園（下の池）

写真：松沢孝晋

身近な自然…
どう評価すればイイの？
どうつきあえばイイの？
モノサシ（目安）を
手探りしています。

調査報告書 の バックナンバー

「**都市の自然のモノサシ研究会**」が まとめた 調査報告書は、
下記のブログでご覧いただくことができます。

http://blog.goo.ne.jp/monosashi758

モノサシなごや 検索

年度毎 の 報告書

姉妹編です。

【20－0301】号 *2019 報告書*
いきものマップ ― 日本庭園と生物多様性 第 4 弾 ―

【19－0301】号 *2018 報告書*
白鳥庭園 vs 徳川園 ― 日本庭園と生物多様性 第 3 弾 ―

【18－0304】号 *2017 報告書*
深読み★白鳥庭園 ― 日本庭園と生物多様性 第 2 弾 ―

【17－0303】号 *2016 報告書*
白鳥庭園★再発見 ― 日本庭園と生物多様性 ―

【16－0213】号 *2015 報告書*
都市の植生活★四つの健康チェック

【15－0202】号 *2014 報告書*
健康な植生活って、何？

【14－0223】号 *2013 報告書*
都市の緑は B 級グルメ

いきもの目線 VS まちづくり目線
目線による評価の違いを徹底比較！

【13－0317】号 *2012 報告書*
図鑑：都市の緑の生え方タイプ

丘陵、河原、ため池、社寺林、公園、…
名古屋市内 160 か所を **撮りまくり！**

個別テーマ の 調査

【17－1027】号 **名古屋の野鳥マップ（改訂版）**

【16－1201】号 **むしる？むしらない？**
― 市民 308 名に聞きました ―

【16－0203】号 **どんな緑が好き？**
― 市民 213 名に聞きました ―

ワイルド VS マイルド

【15－1224】号 **名大キャンパスマスタープランへの提案**

意外な穴場！
高層建築の裏に**トトロの森！**

お問い合わせは… **monosashi758@gmail.com**

① 造園や**生物調査**が専門の者／**② 土木・建築**など専門外ながら生物とかかわらざるをえない者／**③ 素人なりに**身近な自然とのつきあい方に**戸惑っている者**…の「**混成部隊**」です。 ***いきもの目線とまちづくり目線、素人目線と玄人目線を つなぎたい！*** がモットーです。